

5) 医療機器の現況

今回調査の結果では、現在使用されている医療機器は耐用年数を超えたものが多く、また医療機器が病院に納入されたいきさつが、ユニセフ、WHO等の援助物資として、或は日本の援助物資として行われたためか、納入担当者による補助部品の納入が不足となった点と、病院のサービス担当職員の不足から、現状での機能は充分とは言えない。また医療機器に対する電源、水等の設備の不足は調査した病院の総てに共通した事実であった。

以上の実情から今回の整備計画では、新医療機器の大巾な増強と取扱いについてのトレーニングシステムの確立が必要があると同時に、電源、水源等の設備の整備、及び病院毎の専任整備担当者の選任と中央よりの循環指導サービスの組合せによるメンテナンスシステムの確立が重要である。

(1) 病棟部分に関して

各病院に共通している事は、現状の病室部分に関してみると患者の療養のため居住する環境として、決して良好とは言えない。例えば病院ベッド及びマットレスの大多数は早期に優先して取換える必要がある。

その理由は、東洋人の体型に適していない寸法の物が多く見られ、また、適合している物は品質的に低級な製品であるから、治療及び介助を施す医師、看護婦にとって、作業上非常に不便で、余分に手間がかかり、必要以上に労働加重となっているからである。その上、耐用年数に達しているものが多く、余り清潔でないので適合した形状寸法の新品にすべきである。

また、この件に関連して処置すべきものとして建物内部の塗装替え、壁紙の張替え等の努力を行うべきである。相当程度居住環境が良好になると考えられる。この為の投資は新改築ほど多くを要しないから、計画予算の有効配分を機能向上の方に優先するべき現況であるから充分検討すべきことである。

(2) 看護部門専用材料について

病棟にて使用される主たる看護用材料である Dressing Carts, Medication Carts, Chart File Carts, Wheel Stretchers, Instrument Carriages, 等も形状寸法に差がなく、東洋人の体型に適合したものにする必要がある。良好な労働環境を作り出す事と、特に新築しない病棟については廊下及び病室のスペースに余裕がない現状であるし、全体的に医療サービスの作業能率をあげる目的のため、形状寸法は勿論、品質、耐久度等を充分考慮して、仕様を決定し、それに基づいた機器を導入すべきである。

(3) 診断精度向上について

一部の特殊な事情を持つ病院以外、全般的に、現に設備され稼働している診断用機器類は、初級のX線装置と、一般検査用の臨床機器が主体であった。臨床治療を主とする病院に基本的に必要な患者検査機器類（E. C. G, E. E. G, E. M. G, 超音波診断装置等）のM. E. 機器の不足が（メンテナンス部門活動が今迄不足していた故か）特徴的に見受けられた。

また、検体検査に必要な光電光度計、遠心器、顕微鏡、恒温槽、乾熱滅菌器、フ卵器等の汎用検査用機器類は、一応揃っていたが、型式が古く、その上耐用限界に達しているものが多かった。

今回の実情調査で提供された各病院の資料による取扱い疾病形態を見ると、大略共通した面があるから基本的診断用機器は可能な限り、現在使用されているものより上級の機種を設備し、今回の整備の対象となる公共の地域病院は、その機能を果すためグレードアップする必要がある。そして、その病院の持つ諸条件（専門医、専門技術員等が常駐していること、特異的な疾病があって必要なこと等）によって専門機器を加重して設備する方針にすべきである。

(4) 手術部門について

今回調査を行った公営病院の内、特別な病院（例えば Pangasinan Provincial Hospital and Medical Center）を除いて、各病院とも手術件数はそんなに多くなかった。病院関係者の説明によると、どこでも開腹手術、開胸手術等を実施しているとの事であるが、実質的には医療機材の不足、術后管理のための設備機材、専門職員等の不足により、主として外傷が要因である修復手術が主体の様である。

今回整備の対象となっている公営病院は、それぞれ地域の中核であると共に、病院によっては他に競合する私的病院が少なく、また、あるとしても能力を持たない病院しかない現状の所も多いので、現在の各公営病院の手術部門、術后管理部門の機能を向上させるべきである。担当する医師、専門看護婦等の配置は取敢えず考慮に入れなくても、基本的なその機能向上の要点として絶対必要な術前検査に関する部分、手術に要する機材の滅菌作業に関する部分、術後感染防止を含めた術后管理部分等の基本的設備を優先すべきである。

従って手術用鉗子類及び器具は一般外科手術用の基本的なもののみとし、専門医が配置された場合、その都度要望によって配備するのが現実的だと判断する。

(5) 分娩部門について

現地の一般的な習慣として、自宅分娩が主流をなしているとの事であったが、各公営病院に共通している事は病院における分娩取扱い数が割合として多い。病院にての分娩は異状なケースを主とするとの関係者の説明であるが、これらの実情から今後の病院整備にあたって、この部門の整備は、公共医療サービスの面から重視すべきである。関連する家族計画部門も同様である。(宗教による影響が根強く生活にしみ込んでいる故か)、一般的に妊娠例数が相当に多いのであると説明された。これらの事から、周産期の破傷風感染症を始めとする感染防止に有用な関連設備、未熟児看護の設備、新生児の感染防止の設備等に、現実的な配慮を取入れる必要がある。これらの整備によって、新生児死亡率の低下、産褥時母体の安全に大きな効果を見込む事が出来る。

(6) 中央材料部門について

繃帯材料等の滅菌消毒用のオートクレーブの現状は、各病院共入院ベット数によって割出されているところの一般的な標準処理量基準に比して、その能力はすべて小容量機種であった。

その上メンテナンス不足で稼働が十分でなく、滅菌効果を保障するための表示装置のない形式であったから、滅菌効果も疑問であった。医療行為の基本である滅菌消毒が満足されていない状態にある事は問題であり表示装置のある構造の機器で整備すべきである。

従って中央材料部門は病院整備計画の重点項目として重視すべきである。しかしこの部門の整備には、必然的にエネルギー源の確保が問題となってくる。現在は電気を使用するものと、ガスを使用するものの2機種のみが使用されている。電気を使用する機種に故障のため放置されているものが多かった。現状電気供給量が不足している事に加えて、補修部品の不足が原因のようであるが、今後は若干大きい容量のものを計画せねばならないから、使用熱源としてガス用と蒸気用の2種類の内、諸般の事情(設備面の費用及びメンテナンス等)を考慮してガスを使用する機種が適当と思われる。また、この部門は洗滌作業を行うから給水量を確保せねばならない。その為建築設備との関連で水の貯留や配管サイズ、揚水及び排水等の整備も併せ考慮すべきである。

(7) 給食部門について

患者に対する給食は、重要な治療の一環である。現地調査の結果、各病院に共通していたことは、調理用具及び食器類の清潔保管庫、食品材料等の保管、保存の設備不足と、調理用洗滌流し設備と使用済の下膳食器類の洗滌流しの分離がなされていない点等が目立った。今回、比国側より資料として提供された

Standard Plan に記載された、機種名を見ると、食器類の消毒設備について不足している点を除けば概ね妥当と思われる。

しかし、この部門の整備上の要点は、器具だけではなく、建築設備に属するものであるが、衛生上基本となる虫害、鼠害を防止する設備が重要である。また、残菜残飯の処理設備、排水処理設備が完備しないと、清潔を主とするこの部門に重大な影響をあたえる懸念がある。この配慮を行った上で整備を実施すべきである。また、一方この部門に対するエネルギー供給の問題がある。調査を実施した公営病院施設について全体的に言える事であるが、基本的な配管、配線設備の容量が、適正容量の配管サイズ、配線サイズで整備する事が先決である。この点を実施しないと現在はもちろん、将来にわたって公営病院のグレードアップに大きな禍根を残す事になる。

(8) 洗濯サービス部門について

洗濯作業部門については時代の趨勢でもあるから機械化を促進すべきであるが、現実的には作業を担当する職員の数量的充足について問題はない様であるし、確保出来る水を含めたエネルギー源の現状から、効率的に運営するためこの部門の作業時間を一作業日内のある一定時間に集中して稼働を行う事とすべきだ。従事する人員増により省力化に逆行するかも知れないが、病院全体が必要とするエネルギー源の供給が当分の間限定される事と予測されるから、その消費を時間的区分で有効に利用するため止むを得ない。したがってこの部門を整備するための機器は効率化されたものを採用し、その上に人的動力を重ねて実施出来る整備をすべきである。

6) 病院運営費の現況

調査対象病院の1977年の経営費についてみると、経常収入はそのほとんどが政府の補助金で占められ、患者から受け取る診療収入は全収入の10%前後である。この他に4~5%の県、市、町の地方自治体から交付される金がある。しかし自治体の財政事情に左右され交付を受けられない病院がある。

一方、経常支出はその大半を人件費と材料費に費やされ、その合計は支出の80~90%にもなる。

以上は調査結果の概要であるが、その内容は、本プロジェクトを進める上で管理運営費の算定の指標となるもので、経常収入、経常支出についてさらに詳しく述べる。

(1) 経常収入

表1は総収入額とその内訳である。(空欄の個所は回答の得られなかった部分。以下同じ)病院のランク、規模、地域により収入総額に大きな差がある。最も収入の少ないAparri Emagency H. Pは、規模も25病床(認定病床数)、Region 2の北端にあり、県病院より1ランク下の病院である。一方、最も収入の多いBaguio Medical Centerは、第2の首都とまでいわれるバギオ市内にあり、公立病院の中でも最上クラスのランクで認定病床300床と規模も大きく、その収入額は1,000万ペソを越え、アパリの28万ペソと比べると実に3.8倍になる。これは、最小と最大という極端な例の比較であるが、他の例でも、100病床クラスの県病院は100万ペソから200万ペソ、200病床のPangasinan, Cagayan, Don Mariano Marcos等は400万~500万ペソとやはり差が認められる。これは単なる病床数の差だけではなく、病院のランクが上り診療内容が高度になり、その負担に見合っ政府の交付額が増加するものと考えられる。

次に、収入の内訳は前記したように10%前後が患者からの収入で、残りは政府および地方自治体からの補助金で補われている。Baguioのように看護学校から収入を得ている病院もあるが、県病院クラスではまだ看護学校のようなトレーニング施設を持っている所は少ない。患者からの収入が少ないのは、病院融資法(RA 1939)で、すべての公立病院は少なくとも90%(後に70%に改正された)以上の無料病床を扱うことになっているため、入院患者からの収入に限度があることと、外来患者の診断は無料のためである。したがってその穴埋として、政府および地方自治体から補助金が交付され、その額は認定病床当りに換算すると、政府補助金は100病床クラスでは11,000~23,000ペソ台に分布し、200病床では、14,000~19,000ペソであり、地方自治体

の補助金はポントックやバタネスのように交付をうけていない病院もあるが、補助金を受けても100病床クラスでは300～1,500ペソ、200病床では1,100～2,400ペソと政府補助金の1割に満たない。日本の公立病院のように運営財源を医業収益に求めることもなく、収入の大半を補助金が占める財源状態ではむしろ予算の使われ方が問題になってくる。

(2) 経常支出

表 - 1 は COMPREHENSIVE REPORT に記載されている各病院の1977年の支出である。(※バタネスだけは現地調査による) 人件費と材料費の占める比率が圧倒的に多く、次いで医療器材費、施設の維持補修費となっている。年間の職員1人当りの人件費は1977年度では4,336ペソから9,279ペソまでと差があるが、給料だけを比較すると、最高額が7,800ペソ台に下り、その差が縮まる。人件費の平均は6,591ペソ、その内給料の平均は6,041ペソ、報酬、福利厚生等その他の費用の平均が550ペソである。また(表4)の基本給料と実際に支払われた人件費と給料、報酬、福利厚生その他の比較では、人件費は平均16%、給料は平均7%高くなっている。給料が基本給料より平均7%超えているのは、超過勤務等の手当の支払いがあるためである。また、報酬、福利厚生その他費用は基本給料の平均9%である。人件費の占める割合は平均40.2%であるが、Major Marcos, Don Mariano Marcos や Quirino は16%～20% 台と大巾に下回っている。この3病院の職員1人当りの人件費は他と比べ低くはないが、一方、支出に占める材料費の割合は平均47.8%で、人件費の割合より2割程高い数値である。材料費の1病床(現状)当りの額は、平均8,681ペソ/bed であるが、Baguio, Major Marcos, Don Mariano Marcos の3病院は18,000ペソ/bed～22,000ペソ/bed と他の病院より高い。逆に、低い方では、Abra, Aparri, Kalinga-Apayao, Bontoc の3,000～4,000ペソ/bed である。他の病院は5,000～8,000ペソ/bed の範囲である。

次に、医療器材費は新規に購入したり、据付けることがないかぎり、定常的には支出の3～5%位と思われる。また、建物施設等の維持補修費は、記入のあった病院にかぎってみると、支出の内0.02%～7.4%と巾があるが、施設の新旧、建物規模等により千差万別である。

(3) 料 金

チャリティーの患者は全て無料で医療サービスを受けることができる。した

がって以下に述べる内容は、料金支払能力のある患者にかぎられる。

(a) 外来患者基本料金

外来患者の診察費は原則的には無料である。薬代は内容により異なるが院が与える場合は1回10~30ペソ、検査代(ラボテスト代)も1回につき5~30ペソである。その他レントゲン撮影をすると1回20~35ペソ別途支払う。

(b) 入院患者の基本料金

入院費用は、部屋代は、一般の大部屋では18ペソ/人日、プライベート・ルームでは24ペソ/人日~30ペソ/人日が一般である。食事代は4ペソ/人日であるが、薬代と検査代は外来とほぼ同様である。1日入院すると部屋代18ペソ/人日、食事代4ペソ/人日、薬代10ペソ/人日で最低32ペソ/人日必要となる。

(c) 手術代

手術代は、その症状により大きく異なるが、料金表をみると大手術は500ペソ以上、中手術は250ペソ~400ペソ、簡単な手術50~200ペソである。手術代の他に麻酔代50ペソから100ペソ、手術室使用料は25ペソから75ペソが加算される。

また、出産は、普通出産の場合は80ペソに分娩室使用料が加算される。

表一 病院の収入と内訳 (1977年)

単位：ペソ

		Pangasinan (P-265B)	Bontoc (P-100B)	Baguio (M-249B)	Berquet (P-119B)	La Union (P-150B)	Abra (P-110B)	Gabriela Silang (P-88B)	Don Mariano Morcos (P-100B)	Ilocos Norte (P-163B)	Cagayan (R-200B)	Kalinga-Apayao (P-100B)	Aparri (E-32E)	Isabela (P-100B)	Quirino (P-73B)	Ifugao (P-75B)	Mej Marcos Veteran (R-115B)	Nueva Vizcaya (P-56B)	Batanes (P-75B)	
内 訳	(1) Revenue	5,148,257	1,220,947	1,070,314	1,298,804		1,298,114	1,630,087	4,608,297	2,688,274	4,477,592		280,300		2,210,919	1,402,289		677,829	1,175,266	
	(a) Pay-patient	764,440	114,969	1,053,569	74,804		167,000	312,000	536,721	325,995	442,346		47,623		202,487	115,992		164,999	68,266	
	Out-patient	195,769			18,342			100,000	146,511		53,082		4,902		26,990				9,032	
	In-patient	568,671			56,462			302,000	390,210		389,264		42,721		175,497				155,967	
	(b) Hospital Receive Subsidies	4,383,822	1,105,978	903,164	1,224,000		1,131,114	1,318,087	3,227,785	2,362,279	4,035,246		232,677		2,008,432	1,286,297		51,283	1,107,000	
	City, Municipality & Province Subsidies	486,007		1,050,315	154,000		50,000	118,087	189,707	34,866	226,346		12,429		34,142	8,000			15,000	
	National Aid			7,680,849																
	The General Fund Subsidies	3,897,815	1,105,978	300,000	1,070,000		1,081,114	1,200,000	2,827,078	2,327,413	3,808,900		210,248		1,974,290	1,278,297		49,783	1,107,000	
	Others								211,000					DOH 10,000						
	(c) Others			看護学校 618,408					843,791											
内訳構成割合	(1) Revenue	100.00	100.00	100.00	100.00		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		100.00		100.00	100.00		100.00	100.00	
	(a) Pay-patient	14.85	9.42	9.84	5.76		12.87	19.14	11.65	12.1	9.88		16.99		9.16	8.27		24.34	5.81	
	Out-patient	3.80			1.41			0.61	3.18		1.19		1.75		1.22				1.33	
	In-patient	11.05			4.35			18.53	8.47		8.69		15.24		7.94				23.01	
	(b) Hospital Receive Subsidies	85.15	90.58	84.38	94.24		87.13	80.86	70.04	87.9	90.12		83.01		90.84	91.73		75.66	94.19	
	City, Municipality & Province Subsidies	9.44	0	9.82	11.86		3.85	7.24	4.11	1.3	5.06		4.43		1.54	0.57		2.21	0	
	National Aid	7		7.176																
	The General Fund Subsidies	75.71	90.58	2.80	82.38		83.28	73.62	61.35	86.6	85.06		75.01		89.30	91.16		73.45	94.19	
	Others								4.58					3.57						
	(c) Others			5.78					18.31											

表一 2 病院の収入 (病床当りの収入 1977年)

単位: ペソ

		Pangasinan (P-265B)	Bontoc (P-100B)	Baguio (M-119B)	Benguet (P-119B)	La Union (P-150B)	Abra (P-110B)	Gabriela Silang (P-88B)	Don Mariano Morcos (P-100B)	Ilocos Norte (P-163B)	Cagayan (R-200B)	Kalinga-Apayao (P-100B)	Aparri (E-32B)	Isabela (P-100B)	Quirino (P-73B)	Ifugao (P-75B)	Maj Marcos Veteran (R-115B)	Nueva Vizcaya (P-56B)	Betanes (P-75B)
現状病床当りの収入	(1) Revenue	19,427	12,209	42,985	10,914		11,801	18,524	46,083	16,492	22,388		8,759		30,287	18,697		12,104	15,670
	(a) Pay-patient	2,885	1,149	4,231	629		1,518	3,546	5,367	2,000	2,212		1,488		2,774	1,546		2,946	910
	Out-patient	739			154			114	1,465		266		153		370			161	
	In-patient	2,146			475			3,432	3,902		1,946		1,335		2,404			2,785	
	(b) Hospital Receive Subsidies	16,543	11,060	36,270	10,286		10,283	14,978	32,278	14,492	20,176		7,271		27,513	17,151		9,158	14,760
	City, Municipality & Province Subsidies	1,834		4,218	1,294		455	1,342	1,897	214	1,132		388		468	107		268	
	National Aid			30,847															
	The General Fund Subsidies	14,709	11,060	1,205	8,992		9,828	13,636	28,271	14,278	19,044		6,570		27,045	17,044		8,890	14,760
	Others								2,110				313						
	(c) Others			2,484					8,438										
認定病床当りの収入	(1) Revenue	25,741	12,209	35,677	12,988		12,981	16,301	23,041	26,883	22,388		11,212		22,109	18,697		13,557	15,670
	(a) Pay-patient	3,822	1,149	3,512	748		1,670	3,120	2,683	3,260	2,212		1,905		2,025	1,546		3,300	910
	Out-patient																		
	In-patient																		
	(b) Hospital Receiver Subsidies	21,919	11,060	30,104	12,240		11,311	13,181	16,139	23,623	20,176		9,307		20,084	17,151		10,257	14,760
	City, Municipality & Province Subsidies	2,430		3,501	1,540		500	1,181	949	349	1,132		497		341	107		300	
	National Aid			25,603															
	The General Fund Subsidies	19,489	11,060	1,000	10,700		10,811	12,000	14,135	23,274	19,044		8,410		19,743	17,044		9,957	14,700
	Others								1,055				400						
(c) Others			2,061					4,219											

表-3 調査対象病院の年間収支(1977年度)

単位: ペソ

	Region I									Region II								
	Pangasinan (P-265B)	Bontoc (P-100B)	Baguio (M-249B)	Benguet (P-119B)	La Union (P-150B)	Abra (P-110B)	Gabriela Silaug (P-88B)	Don Mariano Marcus (P-100B)	Ilocos Norte (P-163B)	Cagayan (R-200B)	Kalinga-Apayao (P-100B)	Aparri (E-32B)	Isabela (P-100B)	Quirino (P-73B)	Ifugao (P-75B)	Maj Marcos Veteran (R-115B)	Nueva Vizcaya (P-56B)	Batanes (P-75B)
Budget release	4,112,155	1,125,050	1,063,355	1,377,114		1,326,475	1,430,824	3,179,275	1,799,184		1,306,354	284,909	2,131,652	1,455,104	1,317,579	3,540,300	677,415	
Expenditures	3,806,516	1,220,947	1,013,903	1,570,857	1,927,684	1,197,025	1,289,824	2,931,919	1,871,136		946,944	287,520	2,131,652	1,359,765	1,183,993	3,332,589	673,575	1,000,492
01 Personal Services	1,716,625	624,102	306,038	635,483	715,510	651,520	703,964	804,702	847,311		538,562	136,933	889,498	366,636	438,875	539,583	313,274	303,699
Salaries and Wages	1,441,808	574,102	282,132	531,156	715,510	620,813	649,528	742,949	789,182		504,608	130,911	819,498	340,447	404,579	497,709	287,282	268,699
Fixed Expenditure	94,148	50,000	239,056	104,327		30,707	54,436	61,753	58,129		33,954	6,022	70,000	26,189	34,296	41,874	25,992	35,000
Other	180,669																	
02 Maintenance and Other Operating Expenses	1,989,801	476,845	607,532	820,166	1,212,179	485,059	534,960	1,996,678	951,873		408,382	130,604	1,170,154	953,636	707,394	2,793,006	360,301	62,793
Traveling Expenses	20,105	37,022	70,129	288,95	28,980	16,317	13,405	45,151	25,413		25,587	14,263		24,426	25,055	46,214	9,167	
Communication Services	3,258	2,850	2,390	2,911	5,585	1,090	401	12,962	2,517		1,947	591		422	243	759	131	
Rep & Maint, of National Gov't, Facilities	98,131	8,571		6,632	14,287	7,026	3,110	12,962				322		1,269	15,180	760		18,522
Transportation Services	1,260	777	6,333		10,116	3,183	200					1,235		737	5,995	1,497	475	
Other Services	99,055	23,773	45,052	52,036	97,847	51,157	145,555	59,195	69,433		11,529	7,492		28,457	11,407	287,549	11,934	73,421
Supplies & Materials	1,737,324	403,852	552,409	665,050	926,777	340,051	372,289	1,868,697	854,510		369,319	106,701		898,325	646,094	2,445,377	312,993	529,850
Rent, Grants, Subsidies, & Contributions				4,950		3,000		3,850							3,420	10,850	25,601	
03 Equipment Outlays	100,000	120,000	486,570	115,208		60,446	50,900	130,539	71,952			100,000	720,000	39,494	37,725			
20 Capital Outlays			516,760									9,983						25,000

表一4 調査対象病院の年間収支構成割合 (1977年度)

単位: %

	Region I									Region II								
	Pangasinan (P-265B)	Bontoc (P-100B)	Baguio (M-249B)	Penguet (P-119B)	La Union (P-150B)	Abra (P-110B)	Gabrieila Siliang (P-88B)	Don Mariano Marcus (P-88B)	Ilocos Norte (P-163B)	Cagayan (R-200B)	Kalinga-Apayao (P-100B)	Aparri (E-32B)	Isabela (P-100B)	Quirino (P-73B)	Ifugao (P-75B)	Maj Marcos Veteran (R-115B)	Nueva Vizcaya (P-56B)	Batanes (P-75B)
Budget release																		
Expenditures	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
01 Personal Services	45.10	51.12	30.18	40.45	37.12	54.43	54.58	27.45	45.28		56.87	47.62	41.73	26.96	37.07	16.19	46.51	30.35
Salaries and Wages	37.88	47.02	27.83	33.81	37.12	51.86	50.36	25.34	42.18		53.29	45.53	38.44	25.04	34.17	14.93	42.65	26.85
Fixed Expenditure	3.47	4.10	2.35	6.64		2.57	4.22	2.11	3.10		3.58	2.09	3.29	1.93	2.90	1.26	3.86	3.50
Other	4.75																	
02 Maintenance and Other Operating Expenses	52.27	39.05	59.92	52.22	62.88	40.52	41.47	68.10	50.87		43.13	45.43	54.89	70.13	59.75	83.81	53.49	62.15
Traveling Expenses	0.53	3.03	0.69	1.84	1.50	1.36	1.04	1.54	1.36		2.70	4.96		1.80	2.12	1.39	1.36	
Communication Services	0.86	0.23	0.24	0.19	0.29	0.09	0.03	0.44	0.13		0.21	0.21		0.03	0.02	0.02	0.02	
Rep & Maint, of National Gov't, Facilities	2.58	0.70		4.22	7.41	5.87	0.24	0.44				0.11		0.09	1.28	0.02		1.85
Transportation Services	0.06	0.06	0.06		0.52	0.27	0.02					0.43		0.06	0.51	0.04	0.07	
Other Services	2.60	1.95	4.45	3.31	5.08	4.27	11.28	2.02	3.71		1.22	2.61		2.09	0.96	8.63	1.77	7.34
Supplies & Materials	45.64	33.08	54.48	42.34	48.08	28.41	28.86	63.73	45.67		39.00	37.11		66.06	54.57	73.38	46.47	52.96
Rent, Grants, Subsidies, & Contributions				0.32		0.25		0.13						0.29	0.33	3.80		
03 Equipment Outlays	2.63	9.83	4.80	7.33		5.05	3.95	4.45	3.85			3.48	3.38	2.91	3.18			
20 Capital Outlays			5.10									3.47						7.50

III章 調査対象病院の現況

Ⅲ章 調査対象病院の現況

目 次

Ⅲ - 1 調査対象病院の医療現況	1
Ⅲ - 2 インフラ施設の現況	53
1) 建 物	53
2) 電気設備	90
3) 空調・衛生設備	95
4) 道 路	102

Ⅲ-1 調査対象病院の医療現況

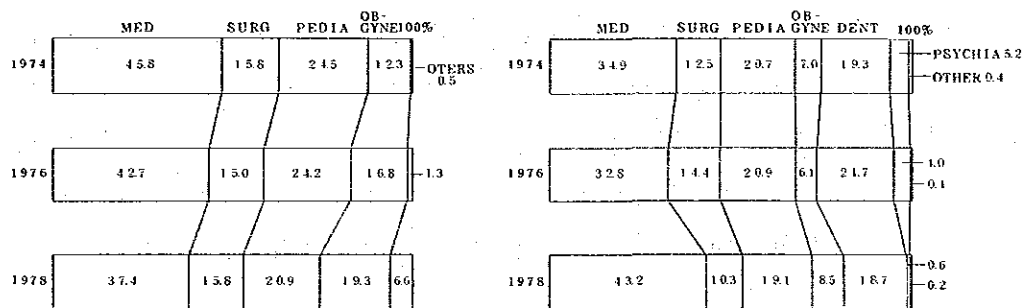
(I-1) PANGASINAN PROVINCIAL HOSPITAL

人口が極めて密集しているPANGASINANの中心地に位置するこの病院は、この地域において極めて重要な役割を負わされている。今回の計画ではPROVINCIAL HOSPITALから一躍にメディカルセンターに格上げされる予定であるが、名実共に十分根拠のあることと思われる。

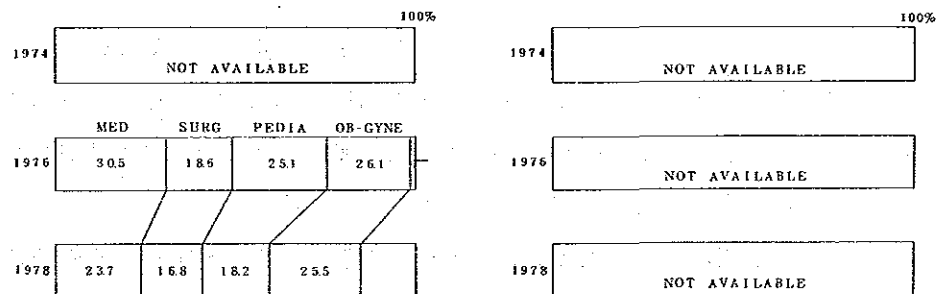
現在、認定200床、現状265床であり、内科、外科、産婦人科、小児科の主要四科以外にも、放射線科、整形外科、歯科、EENT、ラボラトリー、ICUの各科及び結核・栄養失調・伝染病に対するサービスも行っている。

各科別の患者の内訳も特に大きなばらつきはなく、REGION Iの平均からみて内科+小児科の率が低く(41.9%)、逆に外科系の率は少し多い目であり、又特に産婦人科の比率が年々大きくなっていることに気付く。疾病構造の変化をみてもA型は徐々に減少しており50%程度まで下りC型の正常及び異常出産の増加が目立ち又、D型の交通事故等不慮の事故の率が高いのも目につく。全般的にみて、感染性の疾病構造からの脱却がかなり進んでいると言える。

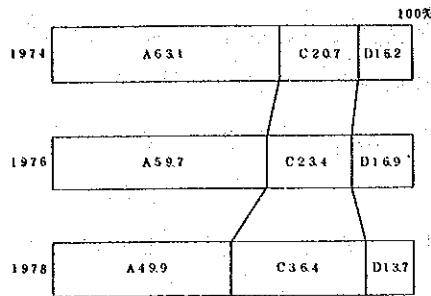
PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF REGION I



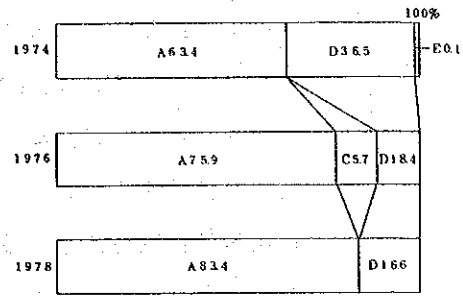
PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF PANGASINAN PH



PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF PANGASINAN PH
IN PATIENT



OUT PATIENT



年間総患者数の増加も着実で、現在の平均入院日数5.3日（外科6日、小児科、内科、産婦人科3日）及び病床占有率125.4%は現在の病院がすでに限界にきており、大巾なベッド数の増加を行わねばならないことを示している。雨期、乾期のシーズンによる患者数の変化はそれ程差はなく、雨期には通状の5~10%増程度との事である。又患者のうち80%はチャリティーであり残りの20%がPay Patientである。Pay Patientのうち10%位が、Complete Paypatientである。風土病は特になし。看護単位は25人で、1看護単位2~3人の看護婦が当たっている。

メンバーの面では、医師は院長を含めて14名、レジデント23名の計37名で看護婦は正看43名、助手22名の計67名（正副看護婦長を含む）である。又技師は薬剤士3名、助手1名、歯科助手1名、放射線技師2名、検体検者技師3名、助手1名、その他ソーシャルワーカー1名が居り計12名となっている。給食関係11名、その他サービス関係17名、メインテ関係8名、輸送関係2名、事務関係23名計183名であり、1床当たり0.69名となっている。

病床数の内訳は、内 科 50床

外 科 75床

小 児 科 40床

産婦人科 40床

栄養失調 10床、程度でありその他新生児用15床、感

染性新生児の2~5床を持ち又ICU室は8床あるが、そのうち4床は設備が完成しているがオペレーターがいなく使用されていない。又残りの4床は部屋のみは完成しているが、器材が入っていない。

手術部門では大手術室2ヶ所、小手術室1ヶ所を持ちその他に救急入口近くに処置室を兼ねた簡易小手術室を持っている。主要な手術としてはAPPEN-

DECTOMY、EXPLORATORY、LAPARATOMY、RADICAL EX-CISION及びCESARIANであり中材部門の集中化は消毒のみである。主要な伝染病はPTB、TYPHOID、INFLUENZAが多い。

放射線部門ではかなり老朽化したレントゲン撮影機（集団用1台、一般撮影2台）がある。検査部門は検尿、検便、血液検査、細菌検査を行っている。今回廻った病室のうちではかなり充実している方であるが、検査器材面の充実がまたれる。

給食は中央配膳方式で患者にのみサービスを行い、年間104,000食位を準備しており、特別食を使っている。又配膳車は保温式のものもある。

洗濯は手洗いで、小さい家庭用脱水器に家庭用アイロンを使用し、シーツ類は2日に1回の割合で交換を行っているとの事である。

救急部門は活発に行われているが、患者数の実態は把握できなかった。現在救急車2台のうち1台のみを使用、もう1台は故障中で直せない状態である。その他Jeep1台、サービスカー1台の計3台を持ち、整備は運転手のうち2人が行っているが、工具が不足している。

医療器材のメンテ要員はおらず、故障の度にマニラへ修理の依頼を行っている現状である。又電気技師が1名メンテ要員として働いている。

病歴・記録部門は、カルテを25年間保存するため現在スペースの不足が目立つ。

トレーニング部門では現在以下の様なものを行っている。

- 看護学生のトレーニング(Training of school medicine) 400名
- 県の2つの看護学校(School medicine)から及び5つの地方大学の看護学科の学生の實習を引き受けている。

- レジデントのトレーニング(Residency Training) 16名

- X線のトレーニング レジデント 1名 学生 20名

- 病理検査技師のトレーニング レジデント 1名 学生 59名

これらの實習に加えて、研修が病院内で1回30名程度の参加者を募って、2週間程度の期間にわたり、年間に4回行われる。

(1-2) BONTOC PROVINCIAL HOSPITAL

山岳地帯に位置するこの病院は、その地域的特殊性上山岳少数民族への医療サービスの拠点という性格を負っている。患者のうち少数民族の占める割合は極めて高い。フィリピン政府の施策として彼らに対しては医療費無料が建前である。

現在、認定・現状ともに100床であり、科として独立していないが内科、外科、小児科、産婦人科、ラボラトリー、歯科のサービスを行ない、医師全員が何でもこなす方式である。その他特殊な医療サービスとして栄養失調、UNDER 6 CLINIC、家族計画がある。伝染病は多いが、当病院では特に伝染病棟を設けていない。

アンパワーでは、院長を含めて医師3名、レジデント16名の計19名、看護婦は正看23名、助手14名の計37名、医療技師では薬剤1名、助手1名、歯科助手1名、検体検査技師3名、ソーシャルワーカー1名の計7名程度である。その他給食要員6名、サービス要員17名、メインテ要員3名、輸送要員1名、事務要員13名、総計103名で、1床当り1.03となっている。

患者数は、入院・外来共に徐々に増加傾向にあるが、人口増加率に比しての伸び率は高い傾向である。入院・外来共に一日平均87名位の患者数があるが調査の当日(3月9日)は低く68名の入院患者があった。病気別に見るとBRONCHITIS ORTI、INFLUENZAが多く、呼吸器系統の病気が多いのは山間部特有の傾向であり、気温の差が年間一日ともに大きいのに原因するものと思われる。その他注意すべき疾病としてアメーバー性(AMIBIASIS)の疾患が多く1ヶ月平均80名程度を数える。

季節的な患者数の変化は正確に把握できなかったが、シーズンの変わり目に患者数の増加が見られること。又雨期には伝染病・ブロンコ系疾患の増加が目立つ。又特殊な例としてはオープンマーケットの開かれる日(月・水・土)には山岳部から多くの人々が街に降りてくるので、病院の患者も入院・外来とも著しく増加するとのことであった。

全般的にみて疾病構造的には典型的な感染性タイプを示し当面この対策が第一の目的となるであろう。

平均入院日数が3.7日と短いのは医者不足もあるが、特に少数民族の貧困に問題がありそうである。又病床占有率86.0%は理想的であるが、病室のレベルが低いので内容の改善を必要とする。

看護単位は1単位2.5床で、計4つのナースステーションを持つが、1単位当り看護婦1名の勤務である。

手術部門では現在手術室が1ヶ所(ただし、完成直後の手術室、分娩室は未

放射性物質は1975年に入手したもので7年後の1982年には半減期を迎えるので、その前に次回分の物質を日本より購入したい旨の希望があり、それに要する費用を今回の借款の対象としたい意向であった。また、スキャナー用の物質はフィリピン原子力公社(Philippine Atomic Corporation)から入手できるので特に要求はなかった。

当病院の担う役割は患者がやってくる場所にも表われており、Baguio市内及びBenguet 県から全体の60%位の外来患者がくるのが、そのうち半分位は山岳民族のイゴロット族である。その他の地域(Region I、Region III 地域を含めて)から40%程度の外来患者がきている。また入院患者はBaguio市内及びBenguet 県から全体の60%位がくるが、多くは外来患者がそのまま入院というケースが非常に多いとのことである。また下部の病院から送られてくる入院患者は全体の30%程度であり、特に外科、産婦人科の高度のケースはBenguet PHから送られてくる。診療科目は一般外科、一般内科、小児科、産婦人科、家族計画及びEENT、放射線科、リハビリ、ICU、CCU、伝染病、UNDER 6 CLINIC を持っている。又マンパワーの配員も多く医師20名、歯科医1名、レジデント41名を数え、院長、医局長を含めると計66名に昇る。看護婦は正看100名、助手51名で正副看護婦長を含めて153名である。

また、医療技師関係では薬剤師5名、薬剤助手1名、歯科助手1名、放射線技士4名、検体検査技師7名、助手2名、その他精神分析士1名、ソーシャルワーカー4名の計25名である。また給食要員22名、その他のサービス要員62名、メインテ要員16名、運送要員1名、事務要員39名の計384名となり、1床当たり1.54名となっている。

患者数では1978年で年間外来患者94,951人、年間入院患者数12,408人程度である。乾期及び雨期の差もかなりあり、雨期には一日平均260~270人程度の外来患者が乾期には340~350人程度に上昇する。また、病床占有率も雨期には80~85%のものが乾期には100%まで上昇する。入院患者数は最近5ヶ年間に大きな変化を見せないが、外来患者は着実に伸びており、病床数を増設すべき時期に来ている。

疾病別にみるとURTI、GASTRO-ENTERITIS、THYROIDが多くやはり感染性の構造系を示している。平均滞在日数が9日と比較的長いのは、高度なケースを扱う事が多い為でもあろう。将来この傾向は更に進むであろう。ただし産科の滞在日数は現在3日程度である。病床占有率は90%を示している。当病院のチャリティー病床率は極めて低く20%以下であり、病院経営的には今回の対象病院の中では裕福であると言えよう。

看護単位は5.0床であるが、1単位当たり5名の看護婦及び30名の実習生が付き、極めて濃厚な看護を行っている。手術部門、放射線部門、検査、救急部門もかなり充実している。給食関係は1月350食程度で特別食をも作っており、保温式ワゴンも揃っている。

(1 - 4) BENGUET PROVINCIAL HOSPITAL

バギオ市の近郊LA TRINIDADにあるこの病院は位置的に山岳部から平野部へ下った所に位置し、また、LA UNION 県への交通の要所でもあり、特にイゴロット族の患者にとっては重要な病院である。現在認定100床であるが実際の病床数は119床あり、内科、外科、小児科、産婦人科の四科の他に歯科・放射線科は独立してはいないが、サービスは行なっている。各科別の病床内訳は、内科30床、外科30床、小児科20床、産婦人科20床となっている。マンパワーの配員では医師は院長1名だけで、その他歯科医1名とレジデント15名が居り計17名となっている。看護婦は看護婦長を含めて正看護23名、助手17名の計40名である。医療技師としては薬剤師2名、助手1名、歯科助手1名と放射線技士1名、検体検査技師2名、助手1名の計8名である。給食員は7名、その他のサービス要員は17名、メインテ要員4名で事務要員は14名の計107名であり1床当たり0.90名となる。

患者数は年々かなりの増加を示し、1978年で外来16,282名、入院患者は3,575名となっている。その各科別の内訳をみると、入院患者は内科と小児科で65~70%を占め、産婦人科の占める割合も25%位とかなり大きい。一方外来患者でも、内科と小児科の合計は80%前後を占めるが最近では歯科の患者の増加が目立っている。また、病気別の患者の内訳を見ると、URTI, INFLUENZA, BRONCHOPNEUMONIA, BRONCHITIS, etc の呼吸器系疾患が極めて多く、山岳民族の患者の多い事を裏付けている。

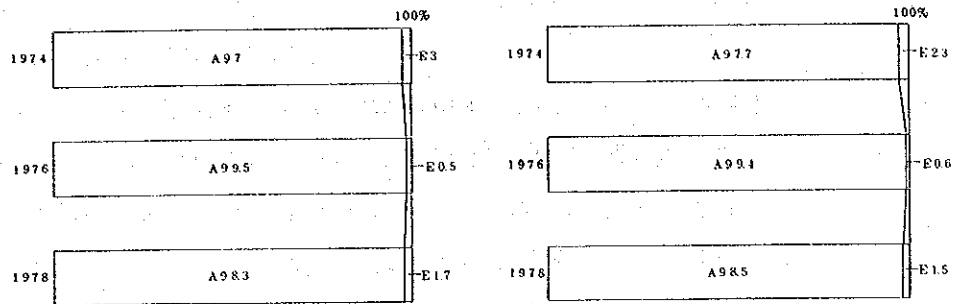
タイプ別でもA型は、入院患者・外来患者共に圧倒的に多く完全なる感染性構造を有している。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF BENGUET PH
 IN PATIENT OUT PATIENT

	MED	SURG	PEDIA	OB-CYNE 100%
1974	38.0	7.8	28.9	25.2
1976	38.7	5.4	30.8	25.1
1978	35.5	10.3	32.0	22.2

	MED	SURG	PEDIA	100% OB-CYNE 5.2	DENT 1.7
1974	40.7	12.0	42.1		
1976	40.3	12.7	40.5		1.7
1978	55.5	9.6	7.7	14.0	13.2

PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF BENGUET PH
IN PATIENT OUT PATIENT



季節による患者数の変動は、雨期に多く乾期にはその8割位となる。平均入院日数は7.3日であるが、産科は3日程度である。また、病床利用率は平均92%位であり、実際に多くの患者が廊下にベッドを置いているのが見られ、雨期にはもっと多くなるとのことである。

PAY WARD は現在24床のみで残りは全てCHARITY BEDである。主要伝染病としては、上記の呼吸器系疾患以外にAMBIASIS, MALARIA, GASTRO系疾患も多い。

看護単位は現在50床程度と思われるが、これは建物の狭さにより1棟に1ヶ所を余儀なくされているものと思われる。

年間手術件数は大手術のみで60~80件程度あり、帝王切開が極めて多くAPPENDECTOMY, THYROIDECTOMYが多いが、腹部、胸部手術は行わない。また出産件数は年々増加を示している。

放射線部門は一般撮影用1台のみであるが、室が狭い為十分に機械を使いこなせない状態である。

検査部門は一般検査の他に化学検査も行っているが、特に細菌検査の充実が望まれる。

救急活動としては、1台の救急車と1台の旧式乗用車を使用し、救急患者の数は比較的多く1978年で7,000名近くあり、活発な部類に入ると言えよう。給食は中央配膳方式であるが、保温ワゴンは使っていない。洗濯は手洗いである。

トレーニングとしては、医療技師のトレーニングのみ行っているが将来は看護婦のトレーニングでも行いたい意向である。

(I - 5) LA UNION PROVINCIAL HOSPITAL

LA UNION PHの位置するSAN FERNANDOの市は比較的最近、隆盛を見始めた都市であるが、政府の施策により全ての第Ⅱ地域の公官庁をこの街へ移し、ここをRegion I地域の中心地にする計画が進められており、病院も例外にもれずRegional Hospitalとしての格上げが予定されている。現在、認定・現状共に150床であり内科、外科、小児科、産婦人科の四科以外に、将来科への格上げが予定されている耳鼻咽喉、整形、精神病棟がありまた、UNDER 6 CLINIC、家族計画、栄養失調、歯科、伝染病棟等の医療サービスを行っている。また特殊なものとして将来家庭巡回サービス(Domiciliary service)を行いたい意向をもっている。

マンパワー配員は医師としては院長の他1名のみで歯科医1名とレジデント24名の計27名をかかえている。看護婦は看護婦長を加えて正看13名、助手23名程度で計36名、また医療技師は薬剤士2名、助手1名、放射線技師1名と助手2名、検体検査技師1名、助手1名及びソーシャルワーカー1名の計9名となっており、給食要員8名、その他のサービス要員25名、メンテ要員8名、輸送要員は4名で事務要員は28名を加え総計145名となり、1床当り0.97名である。

次に患者数をみると、1977年では年間外来患者は30,000人程度と思われ、年間入院患者は7,512人であり、人口増加程急ではないが増加している。各科別内訳ではRegion I全体の平均的な傾向を示し、内科+小児科の占る割合は72~3%を示すがわずかずつ減少している。病気別の内訳では入院・外来共にGASTRO ENTERITISが第1位であるが、呼吸器系疾患の多いのも目立ちやはり、感染系構造であることには変りはない。

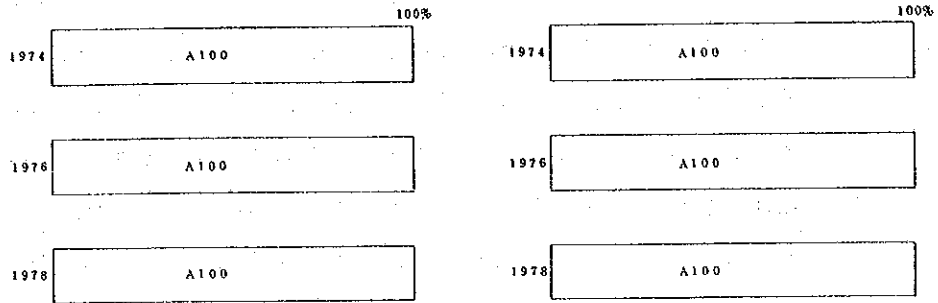
PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF LA UNION RH
IN PATIENT OUT PATIENT

	MED	SURG	PEDIA	OB. GYNE	100%		100%
1974	465	132	27.0	118	DENT+ EENT 1.3	1974	NOT AVAILABLE
1976	448	115	28.1	14.9	0.8	1976	NOT AVAILABLE
1977	425	106	29.7	18.5	0.8	1977	NOT AVAILABLE

PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF LA UNION PH

IN PATIENT

OUT PATIENT



季節による患者数の変動は、雨期では入院は増加するが外来患者は逆に雨期に減り、ドライシーズンに患者数の増加が起る。平均滞在日数は6.1日で病床占有率は106%まで昇る。時々、雨期には四つの主要科の患者が廊下にあふれる事がある。PAYWARDは45床で30%、CHARITY BEDは105床で70%を占める。看護単位は30床程度と思われる。

手術部門では年間の大手術は250~300回/年であり増加 向にあり、主に帝王切開、APPENDECTOMY、EXPLORATORY LAP が多く、また、年間出産数は500件位である。放射線部門は一般撮影の他バリウム造影法、胆のう造影法も行われている。

検査部門では現在行われている一般検査・細菌検査も行われているが器材の不足が見られる。救急活動は、年間救急患者1万人位で(1978年で)3台の車を使って活発に行われている。

トレーニングに関しては将来30~40名を予定している。

(1 - 6) ABRA PROVINCIAL HOSPITAL

ABRA県の県庁所在地BANGUEDの郊外にあり、科用率の低い病院であるが、ILOCOS地方の少数民族の間では、医療に対する理解不足が病院利用率の悪さであるという意見も聞いた。

現在認定100床で現状は110床である。

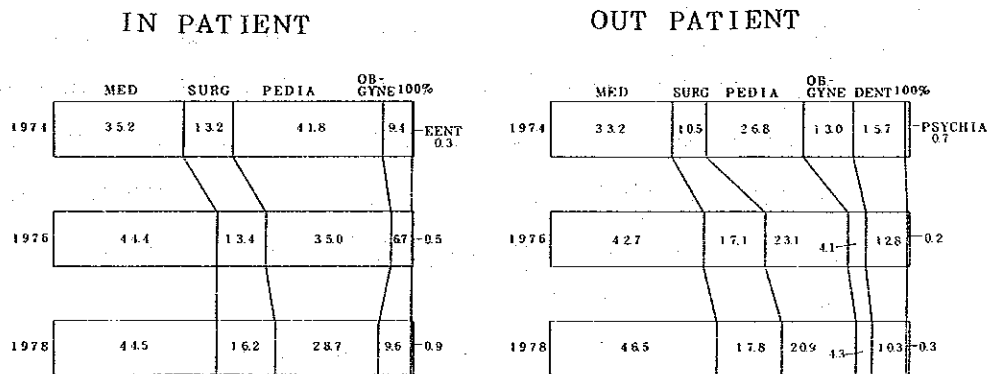
診療科目は、内科・外科・小児科・産婦人科の主要四科に家族計画・栄養失調・放射線・ラボラトリーのサービスを行っている。

マンパワーの配員は、院長を含めて医師2名・歯科医1名・レジデント1名の計4名と極端に少く、看護婦は看護婦を含めて正看16名・助手13名で計29名であり、医療技師は薬剤2名・助手1名・歯科助手1名・放射線技師1名・検体検査技師1名・助手1名で計7名、給食要員6名、その他のサービス要員15名、メインテ要員4名、事務要員8名で総計73名となり、1床当たり0.66名となっている。

患者数は1978年では年間入院患者数2,138人、年間外来患者数1,307人程度であるが、1975~1976年は急激に一時的な増加を見せている。

各科別に患者数をみると、内科系が急に伸び、一方小児科は逆に減少傾向にあるのは注意されてよい。両者を合すると77%~73%とむしろ減少しつつある。病気別の患者数は、PTB、GASTROEOTERITIS、BRONCHITIS etc 感染系が多い事を示しているが、その他B.C.Dタイプに属するものも散見する。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF ABRA PH



平均入院日数は7.0日で内訳は外科7日、内科10~15日、産婦人科3~4日、小児科1.0日である。又病床利用率は75%位という事である。季節的な患者数の変化はないという返事であった。

年間手術件数、出産率もRegion Iの中では少い方であると言える。主な手術としてはAPPENDICTOMY、帝王切開、EXCISION、MASSがあげ

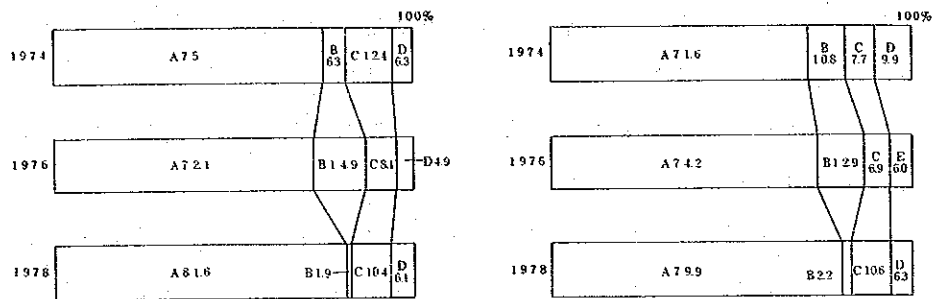
られる。

放射線部門は一般撮影のみであり、又検査部門も細菌検査の立遅れが目立つ。救急活動も救急車が良好な状態になく、医者不足も手伝って、あまり活発ではない。給食は患者にのみ現在45～60食を用意しているが、将来は職員にも給食を拡大したいとのことである。

PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF ABRA PH

IN PATIENT

OUT PATIENT



(1 - 7) GABRIELA-SILANG PROVINCIAL HOSPITAL

ILOCOS SUR 県の県庁所在地 VIGAN 郊外に立地する当病院は、現在認定100床、現状88床を持ち、診療科目としては、内科、外科、小児科、産婦人科の主要四科に加えて放射線、伝染病、栄養失調 etc の医療サービスを行なっている。

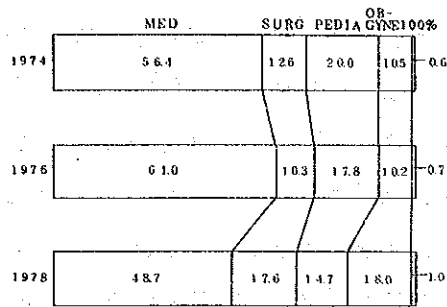
各科別の病床数は内科系43%、外科系及び小児科系がそれぞれ15%、産婦人科は25%程度である。マンパワーの配員では医者は院長のみで、加えて歯科医1名とレジデント8名の計10名であり、看護婦は正副看護婦長各1名に正看21名、助手14名の計37名、医療技師は薬剤師2名、助手1名、歯科助手1名、検体検査技師1名、助手1名の計6名、給食要員6名、その他のサービス要員13名、メインテ要員5名、輸送要員3名、事務要員11名で総計91名で1床当り1.03名となっている。

次に年間患者数をみると、外来20,000人～30,000人位、入院4,000人～6,000人位でABRA PHと同じく1976年に一時的ピークを示している。又各科別の内訳を見ると外来では各科がほぼ均等な割合を示すパターンで、内科+小児科の合計が40～50%程度で他病院に比べて少く、又歯科の占る割合の多いことも注目してよい。入院患者は内科系が圧倒的に多いが、その割には小児科の患者の少いのが目につく。病気別の患者の内訳をみると、やはり感染系構造を示しているが、その中で交通事故が多いのも目につく。

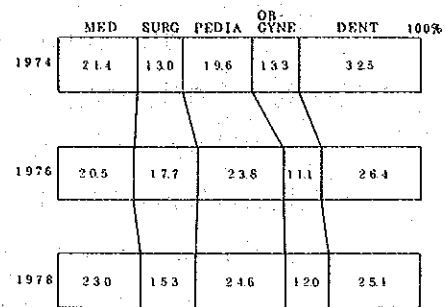
PATIENT RATE BY DEPARTMENT

OF GABRIELA SILANG PH

IN PATIENT



OUT PATIENT



季節による患者数の変化は、雨期には通常の1割位の増加がみられ、特にINTESTINAL、GASTRO-ENTERITIS、その他伝染病が増加する。平均入院日数は4.5日で産婦人科は3.5日位である。又病床占有率は80%位の値である。

看護単位は各科に1単位程度であり平均20~40床と思われ、1単位当り正看2名と助手2名がつめている。

手術・出産部門では、年間出産数・手術件数ともそれほどの変化はみせず、出産年間300件、大手術年間200件程度で一定している。主要手術は、APP-ENDICTOMY、HYSTERECTOMY、帝王切開等である。

検査部門は一般検査・化学検査は幅広く行なっている。今後細菌検査の一部、特に細菌培養検査をも行ってゆくべきであろう。

救急活動も比較的活発であり、年間救急患者数は1978年で6637人であるが、救急車は2台のうち1台のみが使用可能である。

トレーニングは現在週1回行っている。

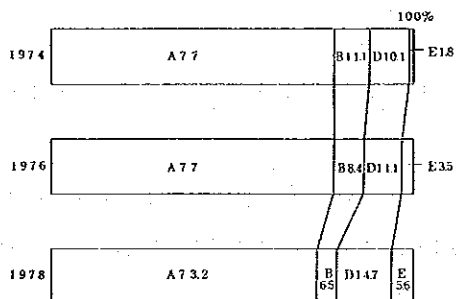
看護婦トレーニング 60名

産 婆 トレーニング 30名

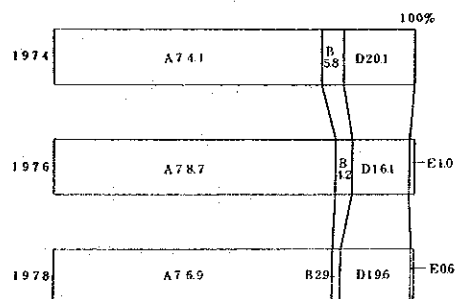
PATIENT RATE BY LEADING DISEASE OF

GABRIELA SILANG PH

IN PATIENT



OUT PATIENT



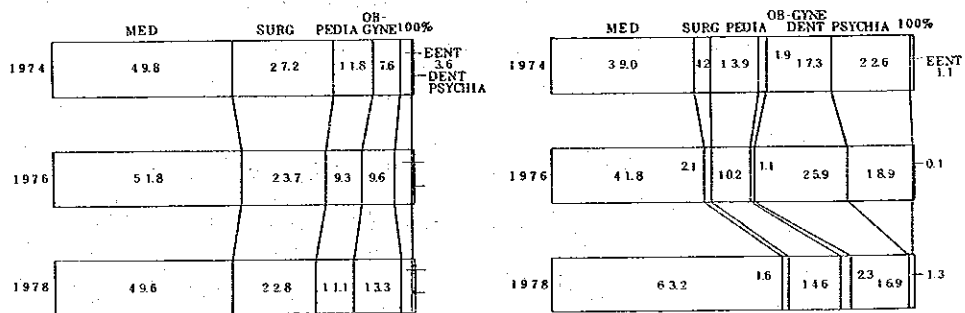
(1 - 8) DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL

ILOCOS NORTE県 BATAACにある本病院は現在近代的な新病院を同じ敷地内に建設途中である。現在認定200床、現状100床である。

診療科目としては内科、外科、産婦人科、小児科、麻酔科があり、それに附属して歯科、放射線、ラボラトリー、家族計画等のサービスを行っている。人員配置は院長他3名、歯科医2名、レジデント9名の計15名、看護婦は正副看護婦長各1名に正看38名、助手20名で計60名、医療技師は薬剤師3名、助手1名、歯科助手1名、検体検査技師2名計7名、給食要員11名その他のサービス要員21名、メインテ要員4名、輸送要員3名、事務要員14名で計135名となり、1床当たり1.35と他の病院と比べると高い率を示している。

年間患者数は1978年で入院2,717人、外来12,811人となっていて、どちらも頭打ちの状態である。各科別の患者数は入院患者では、外科の比重の高い事が特長で、また内科+小児科の比重は60%前後あるが、ほんの僅かずつ減少している。産科の占める率も着実に増加している。外来患者ではそれに反して内科の率が非常に高く、外科、産科は極端に低くなっている。歯科及び精神科の患者の比率が高い事にも注目しなければならない。疾病別にみた患者数は、入院ではA型疾病が70%~80%の間を上下している。外来患者もA型疾病が多く、以前感染性疾病構造を示しているが、序々に心臓病等B型や骨折等D型疾病の増加が予見される。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL
IN PATIENT OUT PATIENT



平均入院日数は5.0日で病床占有率56%を示し十分に現在の病床が利用されていない。

年間手術数は1978年で247件(大手術のみ)、年間出産数161件であり主要手術はORTHOPEDIC、帝王切開の他胆嚢手術(Gallbrader)、CRANIOTOMYや開腹手術も行う。

放射線部門では一般撮影及び胆嚢 (Chole G.I.) 及びバリウム造影撮影 (Barium Swallow Oreneme) を行っている。

検査部門としては一般検査・化学検査を行っているが病理検査は行われていない。

救急活動は余り活発とは言えないが1977年以後は急に患者数の増加をみている。救急車は1台のみである。

給食サービスは患者及び職員双方に準備され、1日350食程度である。又特別食も作っている。

トレーニングは活発に行われ、政府公認のトレーニングでは

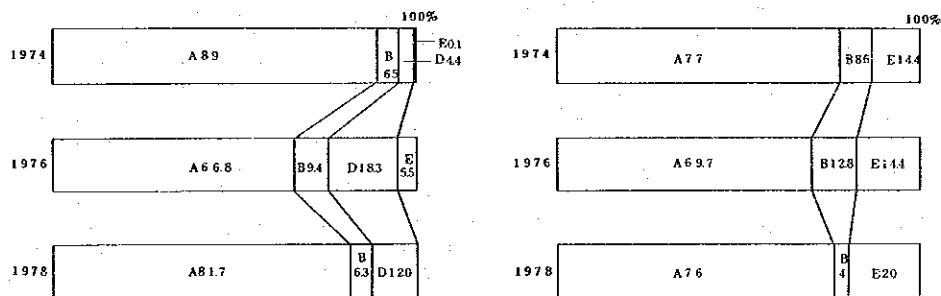
外科トレーニング	レジデント 3名
麻酔トレーニング	指導医 1名 レジデント 1名に空席 1名
産婦人科トレーニング	指導医 1名 レジデント 1名及び空席 1名

となっている。又政府未公認のトレーニングとしては

小児科トレーニング	指導医 1名 レジデント 2名 空席 1名
内科トレーニング	指導医 1名 レジデント 2名 空席 1名
X線トレーニング	指導医 1名 空席 1名
X線技師トレーニング	技師 2名
検査用トレーニング	検査医師 空席 3名
	検査技師 1名
	検査主任技師 1名
家族計画	医師 1名 看護婦 36名

の各種トレーニングが行なわれている。

PATIENT RATE BY LEADING DISEASB
OF DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL
IN PATIENT OUT PATIENT



(1 - 9) ILOCOS NORTE PROVINCIAL HOSPITAL

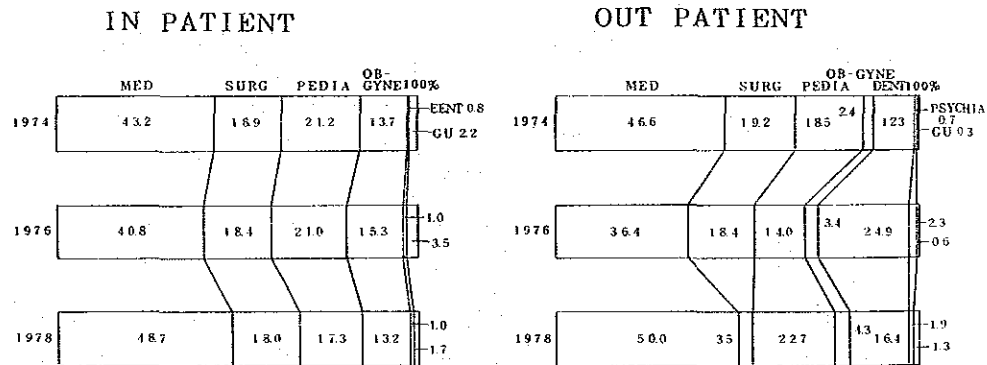
Don Mariano Marcos Memorial Hospital の院長が当病院の院長をも兼ねている。LAOAG市内にある病院である。

現在認定100床、現状163床となっている。公認されたTeaching and Trainingの病院である。診療科目として独立した五科(外科・内科・産婦人科・小児科・及び麻酔科)の他に歯科・家族計画・ラボラトリー・伝染病棟放射線、栄養失調、UNDER 6 CLINICのサービスを行つている。

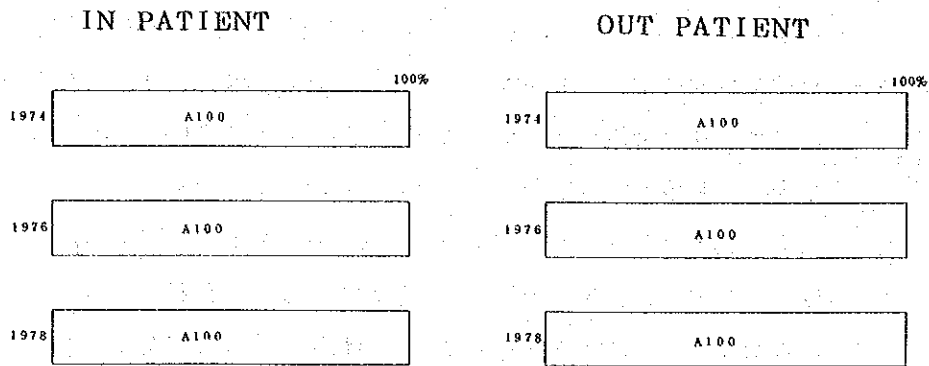
人員配分としては院長・医局長各1名に、医者1名、歯科医2名、レジデント3名、計15名であり、看護婦は正副看護婦長各1名の他に、看護婦31名、助手19名の計52名である。医療技師の面では、薬剤師2名、助手1名、放射線技師1名、検体検査技師1名、助手1名及び物療士9名の計16名と、給食要員11名、その他サービス要員17名、メインテ要員4名、輸送要員2名、事務要員10名、総計118名となり1床当り1.18程度である。

年間患者数は1978年で、入院6,388人で着実な増加を示している。外来では16,794人で頭打ちの状態にある。又各科別の内訳をみると、全体的にはREGION Iの平均構成と似ているが、外来の比率が幾分高い事、傾向がまだ安定していない事、外来で産婦人科の率の低い事が特色といえる。内科+小児科の比率は、入院患者では62~66%、外来患者では50~73%を占める。次に疾病別の患者数を見ると、入院では胃腸炎(GASTRO-ENTERITIS)とINFLUENZAが多く、A型疾患の率は少くて67%、多い年は90%程にもなり、又外来でもほぼ同じ事が言えるであろう。全体的にみてもまだB型へ移行するとは思われない。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF ILOCOS NORTE PH



PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF ILOCOS NORTE PH



季節による患者数の変動は、例えば調査時のような農繁期はタバコの入入れで患者は少く、入院患者は67人であったが、雨期には増加し1日100人～110人まで増加する。

病床の各科毎の配分は、内科49%、外科18.5%、産婦人科13%、小児科19%位である。平均入院日数は4.0日と短い。又病床占有率は85%で現在適正な状態で使用されている。手術、分娩部門では、主要手術としてAPP-
ENDICTOMY、GASTRO、EXPLORATOMY、LAPがみられ、また帝王切開も多く、将来は胸部手術をも行いたい希望をもっている。1978年の年間手術件数は507件、出産数は443件で後者は年々増加傾向を示す。

放射線部門は他の多くの病院と同じく、一般撮影と胆嚢造影とバリウム造影を行っている。

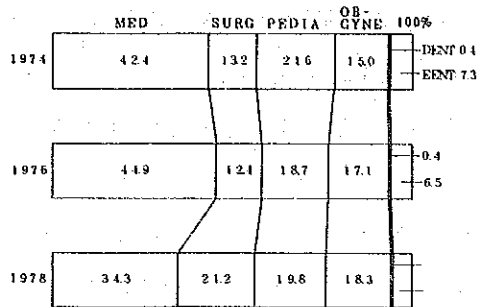
検査部門でも、一般検査・化学検査は行っているが、病理検査は行っていない。

救急活動はLAOAG市内数ヶ所に救急施設がある為、ここ数年間患者数に大きい変化はない。1978年には年間1,130人であった。

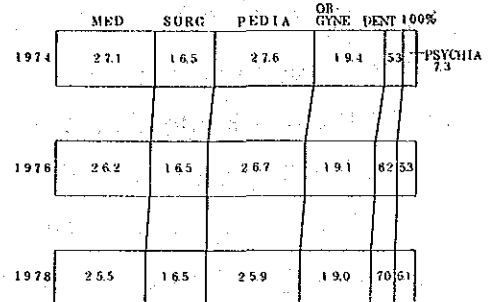
トレーニングは現在内科医・外科医・麻酔医及び産婦人科医のレジデント・トレーニング及びLAOAG市の看護学校の生徒200名の実習が行われており、また産婆20名のトレーニングも行われている。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF CAGAYAN REGIONAL HOSPITAL

IN PATIENT

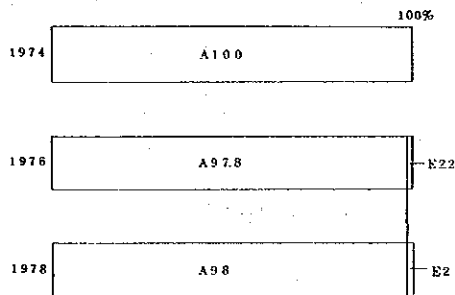


OUT PATIENT

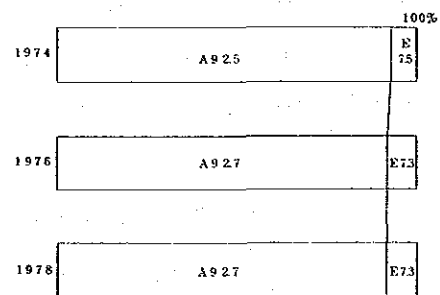


PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF CAGAYAN RH

IN PATIENT



OUT PATIENT



次に疾病別の年間患者数を見ると、10大疾病のうち上位7位まではここ5年間に変化が見られず、GASTRO-ENTERITIS、BRONCHITIS、INFLUENZA、MALARIA、PNEUMONIA、下痢、PTBとなっており、いずれも感染系疾患が多く、疾病構造が他病院と同じであることを示している。同様に外来患者においても、上記の5番までは同一順位となっている。特に、地域に水道がないために、GASTRO 伝染病の流行が4~5年に1度位あり、深刻な問題を病院へも投げかけている。シーズンによる患者数の変動は多少あるがデータ入手ができなかった。

平均入院日数は5.0日であるが、産婦人科では異常出産の占める率が大きいので5日の入院日数になる。これは地域の他施設がなく、全て当病院へ送られてくるためである。病院利用率は80%である。

手術部門は現在大手術室が1室のみで、手術室の拡張工事は途中でストップしたままである。主要手術名はAPPENDECTOMY、帝王切開、HYSTERECTOMYであるが、脳と心臓以外のほとんどの手術を行う。年間手術件数はわずかず増加しており、1978年は641件(大手術のみ)、また年間出産件

数は1,289件であつた。放射線部門は一般撮影とG.I-SERIESを行つている。現在ガンの治療は患者を全てマニラに送つている。

検査部門は検尿・検便・血液等の一般検査はもちろん、化学検査及び一部の病理学検査(Pathology)・血清学検査(Serology)をも行つているが細菌検査(Bacteriology)は行われず、全般的なレベルアップが望まれる。

救急活動は救急車2台(うち1台修理を要する)を使つて行われているし、24時間体制をひいている。

トレーニング部門は現在レジデントトレーニングとして、内科4名、外科8名、小児科2名、産婦人科3名であり将来それを10名位ずつの規模に拡げたい意向である。その他MUNICIPAL OFFICERが7名トレーニングを行つており、給食、X線・麻酔・検査の各部門を全て取得する方式である。その他看護婦のトレーニングが20名に対して行われている。

特殊なものとしては本病院より医師1名がマニラのRadiation Health Officeで放射線治療のためのトレーニングを受け、現在はRadiation Protectionのみ終了し、治療実技のトレーニングを受ける順番を待つている段階であり、将来の放射線治療サービスに対して準備している。

(II - 2) REGIONAL MENTAL HOSPITAL

現在CAGAYAN RHの新敷地の一部にNATIONAL MENTAL HOSPITALとして建設工事中であり、完成後CAGAYAN RHの中の一施設となる。しかしその運営面での具体的な内容は、現地で明確な返答を得られなかつた。又現在CAGAYAN RHの旧敷地の一角にある精神病院との関係も不明確である。現在100床を有し、病床数不足の段階に来ている。

(II - 3) KALINGA-APAYAO PROVINCIAL HOSPITAL

現在、認定・現状共に100床のPROVINCIAL HOSPITALでTeaching and Training病院の指定を受けている。内科、外科、小児科、産婦人科の主要四科に、放射線、ラボラトリー、歯科がある。

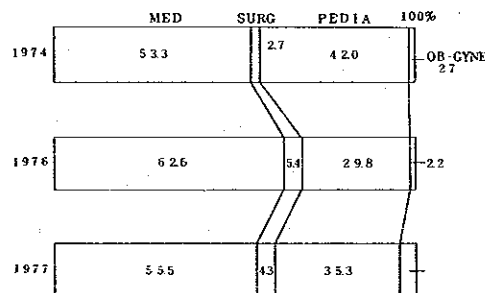
マンパワー配員は、医師は院長1名のみ、歯科医1名とレジデント4名の計6名、看護婦は婦長と正看で26名、助手16名で計42名、医療技師は薬剤師1名、助手1名、歯科助手1名、放射線技師1名、検体検査技師1名とソーシャルワーカー1名の計7名、給食員は7名その他サービス要員17名、メンテナンス要員3名で輸送要員はいない。事務要員は13名で総計95名、1床当り0.95人となっている。

年間患者数は1977年では入院3,961人、外来16,254人で、1974、76年と比較して大巾な減少となっている。1976年は内科の入院患者の大巾な増加がみられ、総じて入院患者では内科+小児科の比率が圧倒的に高く90%前後の極めて高い率を示し、反面、産婦人科、外科の比率は極めて小さい。しかし産婦人科は年々わずかずつ患者数が増加し、この傾向は将来もつづくものと思われる。外来患者では、内科+小児科の比率は入院患者程の高率は示さないが、歯科外来患者の急速に増えた1977年を除けば80%以上の高い値である。

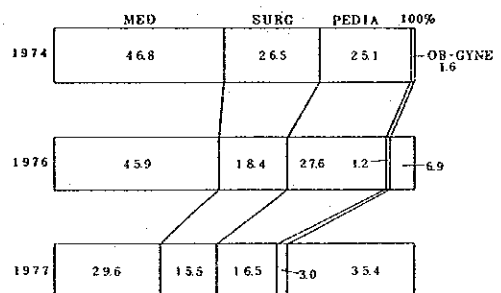
疾病別の患者数をみると、MALARIA、PNEUMONIA、INFLUENZA、等の伝染病が上位を占め、A型疾病の10大疾病中に占める割合は毎年90%前後を示し典型的な感染性疾病構造を示している。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF KALINGA APAYAO PH

IN PATIENT

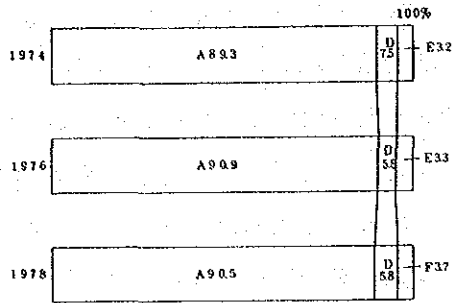


OUT PATIENT

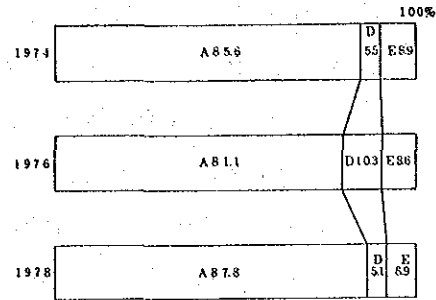


PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF KALINGA APAYAO PH

IN PATIENT



OUT PATIENT



その他戦闘による負傷を含む事故が6~8%を占めているのも目につく。

季節による患者の変化も大きく、農繁期には67%位にまで下がるが農閑期には82~85%位まで上がることもある。平均して70%位であるが、ちなみに調査当日は40%位の低い率を示していた。

平均滞在日数は6日程度で、内訳は、外科7日、産科5日、小児科3日と小児科の短いのが目をひく。

手術・分娩部門では、大手術室1室、小室1室を有し、1978年の年間手術件数180件でそのうち帝王切開が月12件位あり一番多く、APPENDECTOMY、EXPLORATORY LAP、HERNIOLOPHY RADICAL、AMPITATION、ROID等一応脳・心臓以外の手術を行うとの事である。

放射線部門では、CHEST、FRACTURE、KUDのみ行われている。

検査部門では一般検査のみで、化学検査、細菌検査、病理検査は見られない。

救急活動は救急車が故障して、1977年以後急に減ったが、年間500件位ある。

トレーニングはTeaching and Training病院の指定をうけて、看護婦学校(生徒数100人)の計画を持っている。

(II - 4) APARRI EMERGENCY HOSPITAL

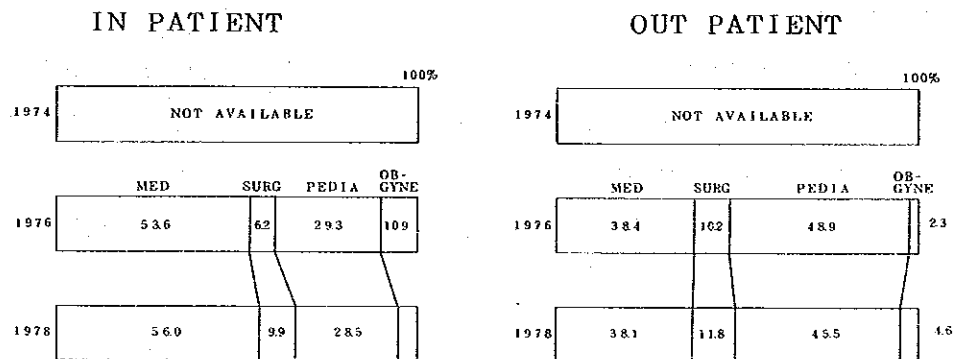
現在 APARRI の郊外にある APARRI EMERGENCY HOSPITAL を新敷地に移転して CAGAYAN PROVINCIAL HOSPITAL として格上げする計画であるが、病院敷地としてはいずれも不適格である。(詳細 補章 参照)

当病院は、認定 25 床、現状 23 床の救急病院であり、内科、外科、小児科、産婦人科、ラボラトリー、X線等のサービスを行っている。

マンパワーの配員は、医師は院長 1 人にインターン 1 人で計 2 名、看護婦は婦長を含めて 4 名、助手 3 名その他産婆 1 名の計 8 名、医療技師は、検体検査技師 1 名のみ、給食要員 2 名、その他サービス要員 4 名、メインテ要員は、輸送要員 1 名、事務要員 3 名の計 21 名で 1 床当り 0.91 名となっている。

年間患者数は、1978 年で入院 1,250 人、外来 6,103 人で具体的な経年変化は明かでない。各科別患者数の比率を見ると、入院患者では、内科、小児科共に Region II の平均より高い率を示し合計すると 83%~85% の高い割合となっている。反面、外科、産婦人科の率は低くなっている。外来でも同じく内科+小児科の率は高く 85% 程度の高い率を示し、特に小児科の率のが高いが目につく。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF APARRI EH



疾病別の患者数のデータは入手できなかつたが、GASTRO-ENTERITIS、BRONCHO PNEUMONIA、BRONCHITIS等消化器系、呼吸器系疾患が多い。季節による患者数の変動は顕著で、雨期には 40% 位多くなるそうである。

平均滞在日数は、平均 3 日~4 日位と思われる。産婦人科では 2 日と極めて短い。病床占有率は平均 72% で、調査当日は 57% と低い率を示していた。

栄養失調患者、伝染病患者共に内科病室に入っており、小規模病院の難しさをかかえている。又病床のうち 60% が Charity 病床となっている。

手術・分娩部門では、1978年の手術件数は31件で、APPENDECTOMY、LAPARATOMY、帝王切開等を行っている。又、年間分娩件数は40件位である。

X線部門では、ポータブルX線装置が1台あるのみで、あまり活発ではなく、胸部撮影(Chest)と骨折撮影(Fracture)のみが行われていた。

検査部門は一般検査のみである。

トレーニングは、病院が上部組織に人を送り込む形で行われており、医師のトレーニングはCAGAYAN RHで、産婆・保健婦等のトレーニングはRegional Training Centerで行われている。

(II - 5) ISABELA PROVINCIAL HOSPITAL

認定・現状共に100床を有する当病院は内科、外科、小児科、産婦人科の主要四科に加えて、放射線、ラボラトリー、齒科、栄養失調、伝染病、結核治療サービスを行っている。各科別病床数は

- 内 科 25床
- 外 科 25床
- 小 児 科 20床(うち、栄養失調患者用 6床)
- 産婦人科 15床
- 伝染病棟 20床 である。

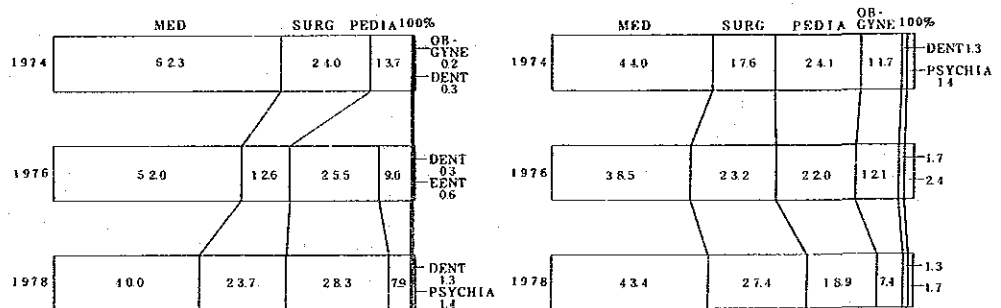
マンパワー配員は、医師は院長を含めて6名、齒医者1名、インターン7名の計14名、看護婦は、看護婦長を含め正看24名、助手21名の計45名、医療技師は、薬剤師2名、助手1名、検体検査技師1名、助手1名、その他の医療技師2名、ソーシャルワーカー1名の計8名、給食要員7名、その他のサービス要員12名、メインテ要員5名、輸送要員3名、事務要員8名の総計102名で1床当り1.02名である。

年間患者数は1978年では入院7,832人で、着実な増加を示し、外来は、16,792人で同じく確実な伸びを示す。次に各科別患者の比率を見ると、ここ5年間に、入院患者の内、内科患者は急速な減少を示すが、小児科の患者は増加し、内科+小児科の比率は70~75%位で、極端な変化はなく、流動的な構造を示している。外来患者でも内科+小児科の比率は流動的であるが、外科比率が着実に増加しているのが目立つ。疾病別の患者比率をみると、GASTRO-ENTERITIS、BRONCHITIS、MALARIAが上位を占め、A型疾患の比率は、入院患者は80%~87%と流動的であるが、明かに感染性構造を示す。外来疾患も同様な疾病が多く、A型疾患の比率はやはり82~84%を示している。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF ISABELA PH

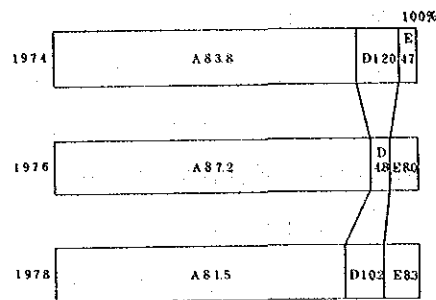
IN PATIENT

OUT PATIENT

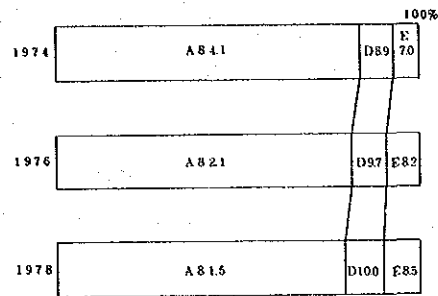


PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF ISABELA PH

IN PATIENT



OUT PATIENT



季節による患者数の変動は、雨期に比較して、乾期（2月～5月）は10～15%増加する。

平均滞在日数は6日で、各科別にみると外科7～8日、内科4日、小児科4日、産婦人科3日程度である。

病床占有率は74.9%で90%位までゆくこともある。

手術・分娩部門は1977年に出産件数249件でそのうち半分程度は帝王切開である。出産件数は年度による変化は少い。

手術件数は1977年で大手術207件、小手術106件となっている。手術室は、大手術用1室と救急用の小手術用1室があり、LAPAROTOMY、帝王切開、FRACTINUS、APPENDECTOMY、HERNIORRHAPHYが主である。

X線部門では、一般撮影及びG.I.SERIES、(Chole G.I.とBarium Swallow Orename)を行っている。

検査部門では、一般検査に化学検査を相当程度行っているが、細菌検査は行っていない。

救急活動は救急車2台で行っている。

給食は、患者にのみ準備し、スタッフには食事援助を行い、通常弁当持参である。洗濯は外注。

トレーニングは、CHHCのためのトレーニングを行っており、レジデントトレーニングは外科、産婦人科、その他看護婦及び看護助手のトレーニングもある。

(II - 6) QUIRINO PROVINCIAL HOSPITAL

認定100床、現状73床で内科、外科、小児科、産婦人科の四科をもち、その他家族計画、ラボラトリー、歯科、放射線サービスを行っている。栄養失調対策は今まで住民の貧困問題にからむ現状がこの県では特にひどく、思った様な実績をあげられないので一応2～5床は準備してあるが、本格的に取り組む予定はない。

メンバーの配員は医師が院長1名、歯科医1名、インターン3名の計5名、看護婦は婦長1名、看護婦15名、助手11名計27名、医療技師は薬剤士1名、助手1名、歯科助手1名、放射線助手1名、検体検査技師1名、助手1名の計6名、給食要員6名その他のサービス要員10名、メインテ要員2名、輸送要員1名及び事務要員9名、総計66名で1床当たり0.90名を示す。この病院の医者不足は深刻でレジデントのうち1名は勤務不能の為、実質的には医師2人のみであり、個人に対する負担が大きくなりすぎている。この地域は後進地域でこの地域出身の若い医師が帰ってくる率が極めて低く院長の精力的な医師獲得作戦も効を奏さない実情である。

年間患者数は1978年は入院6,084件で着実に増加している。外来は14,024件で1976年に急速な増加を示している。各科別の患者比の変化を見ると、まず入院患者では外科と産婦人科の急速な増加が目につき、5ヶ年間に内科+小児科の比率が91.7%から61.8%まで激減しているが、内科、小児科とも着実に患者数は増加しているので、外科、産婦人科の伸びに食われた形となっている。外来患者は内科+小児科が80%～84%を占め、安定した構造となっている。疾病別の患者数は入院患者ではMALARIA、URTIが多く小児科では呼吸器系の伝染病が多い。A型疾患は88%から90%位の極めて高い率を示し、外来患者ではむしろ77%→94%まで年々増加傾向を示す。シーズンによる患者の変化を大きく雨期(特に6月～9月)には30～40%増加する。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF QUIRINO PH

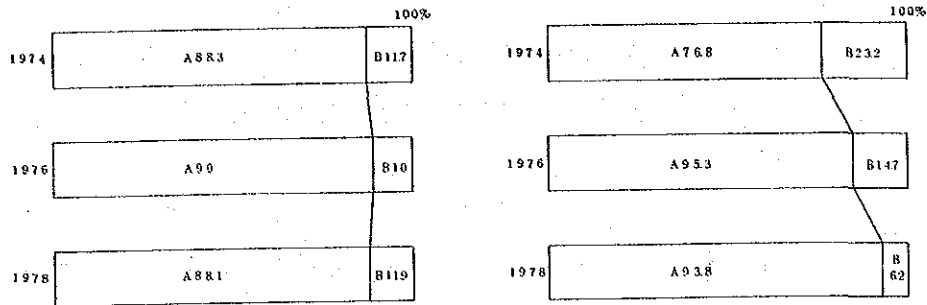
IN PATIENT

	MED	SURG	PEDIA	OB- GYNE	DENT	100%
1974	65.4	6.2	26.3		0.1	100%
1976	52.3	14.0	31.7	2.6	0.1	100%
1978	44.7	23.2	17.1	15.0	0.1	100%

OUT PATIENT

	MED	SURG	PEDIA	OB- GYNE	DENT	100%
1974	46.0	5.8	37.9	11.2	0.3	100%
1976	43.2	10.3	38.0	9.9	0.6	100%
1978	45.7	6.5	38.2	9.2	0.4	100%

PATIENT RATE BY LEADING DISEASE OF QUIRINO PH
IN PATIENT OUT PATIENT



平均滞在日数は5.5日で、病床占有率は73%位である。次に手術分娩部門は出産件数が年間50件前後で異常出産は年間5件位である。1978年には3件しか帝王切開がなかった。手術件数は年間(1077件)、大手術102件で前年に比して急激に増加している。現在大手術室は1つで主要な手術は、APPENDECTOMY、帝王切開、HEMOLOIDECTOMYであるが、麻酔医の不足の為多くはSANTIAGOの私立病院に送るのが実情である。

放射線部門はChest, Fractureのみを行っている。検査部門は一般検査、化学検査を行っている。

救急活動はささやかではあるが行っておりその患者数もわずかず増加しているが、絶対量が少く1978年で298件である。救急車は1台もないが良いコンディションのJeepが1台ある。

給食は行っているが、洗濯は下請に出している。

トレーニングは現在行っていないし近い将来その計画もないが、現在外科1名、家族計画1名のレジデントがマニラでトレーニングを受けている。入院家族の付添が多いがベッドに余裕のある限り宿泊を許している。衛生上は好ましくないが、慣習や病院のスタッフの不足を考えて現状では仕方がないところである。

(II - 7) IFUGAO PROVINCIAL HOSPITAL

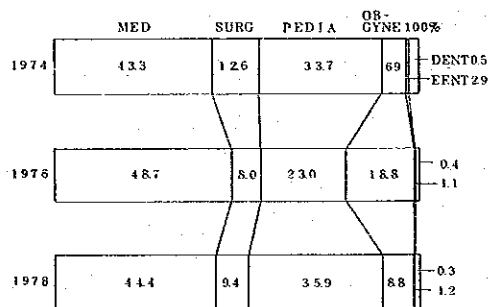
認定・現状共に75床あり、内科、小児科、産婦人科の三科があり、その他一般外科、放射線、ラボラトリー、歯科、EENT、家族計画、栄養失調、伝染病対策の医療サービスを行っている。

マンパワーの配員は医師は院長のみ、歯科医1名にレジデント3名の計5名、看護婦は婦長を含めて16名、助手11名の計27名、医療技師は薬剤士1名、助手1名、放射線技師1名、検体検査技師1名、ソーシャルワーカー1名の計

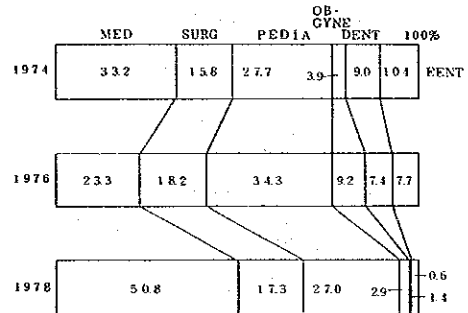
5名、給食要員7名、その他のサービス要員11名、メインテナンス要員2名、輸送要員1名、事務要員11名、総計73名となり1床当り0.973人となる。

年間患者数は1978年には入院2,678件で年々わずかずつ伸びている。外来も同じ18,129件で順調に伸びている。各科別の内訳をみると、外来患者では内科+小児科の患者の割合は大体Region IIの平均を示すが経年変化は極めて流動的である。特に小児科はRegion IIの平均を大きく上まわり、外科は年々着実な伸びを示しているが、産婦人科流動的である。入院患者では内科+小児科の患者の割合が1978年に再び上昇傾向を示し始めているがこれは小児科の患者数の増大による。疾病別の患者数の比率をみると、入院では急性気管支炎とウイルス性感染、URTI、INFLUENZA、MALARIA、が上位を占めA型疾患が上位10位を独占している。外来患者でも急性気管支炎、気管支肺炎、INFLUENZA、が上位を占めA型疾患が上位10位を独占する疾病構造となっている。

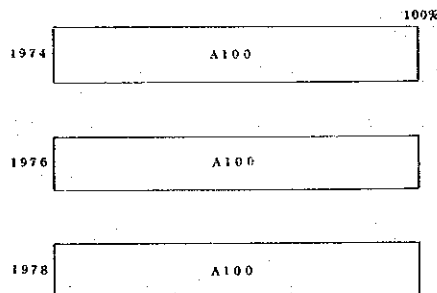
PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF IFUGAO PH
IN PATIENT



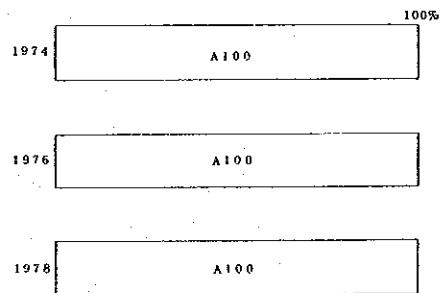
OUT PATIENT



PATIENT RATE BY LEADING DISEASE OF IFUGAO PH
IN PATIENT



OUT PATIENT



小児科の患者が多いのはUPPER RESPIRATORY TRUCK INFECTIONS (URTI) が山間部の気候の変化により多発するためである。季節による患者数の変化は雨期に患者が増大する特徴があり、これは前記の理由と同じものである。

患者はその90%が少数民族であり、彼らの習慣上家族の付添ことが多いが1人だけ付添を許可している。

平均滞在日数は5日で内訳は外科5~7日、内科4~5日、産婦人科3~4日、小児科4~5日である。病床占有率は49.6%と低く、医者の不足で患者の収容能力を伸ばせないところに原因がある。

手術、分娩部門では年間手術件数がここ5年間73件から85件とほとんど伸びず、ここでも医者不足と麻酔医の不足がみられる。主要手術は帝王切開、HYSTECTOMY、APPENDECTOMY、ENTELECTOMYである。出産は年間出産件数が1977年で137件と3日に1件位の割合でこれも極めて低い。

放射線部門はChest、Fracture、KVD、IVPを行っている。検査部門は一般検査のみであるが、病院としては検査部門の強化とりわけ血液検査の充実を目標にしているのは賢明な判断であろう。また、今回計画の新敷地にフィリピン赤十字が独自の建設・運営による血液銀行の建設計画をもっているので病院との間に有機的な結びつきを行えば良い効果が期待できそうである。

救急活動は山間部病院のBONTOC PHと同じく余り活発でなく、年間件数も150~180件と極めて少い。救急車は1台あり良いコンディションにある。トレーニングは現在行っていないし、当面その計画はない。

(II - 8) MAJOR F. MARCOS VETERAN MEMORIAL HOSPITAL

現在認定200床、現状115床で内科、外科、小児科、産婦人科の主要四科と整形・放射線・ラボラトリー・歯科・家族計画・栄養失調(ただし患者が少くうまくゆかないとの事)の医療サービスを行っている。

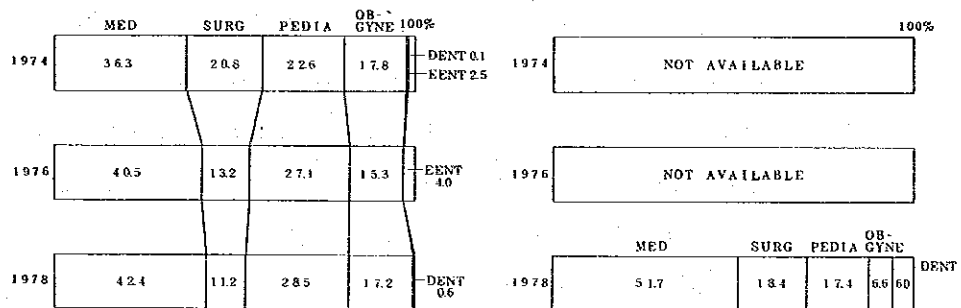
マンパワー配員では医師は院長1名、医者2名、レジデント12名の計15名、看護婦は婦長を含め正看25名、助手17名の42名、医療技師では薬剤士1名、助手1名、歯科助手1名、放射線技師1名、検体検査技師1名、助手1名の計6名、給食要員7名その他のサービス要員13名、メインテナンス要員2名、輸送要員3名、事務要員12名、総計100名で1床当たり0.87人となっている。

年間患者数は1978年では入院5,300件で1976年に較べて急増している。外来は2,103件で著実な伸びを示している。各科別の内訳をみると

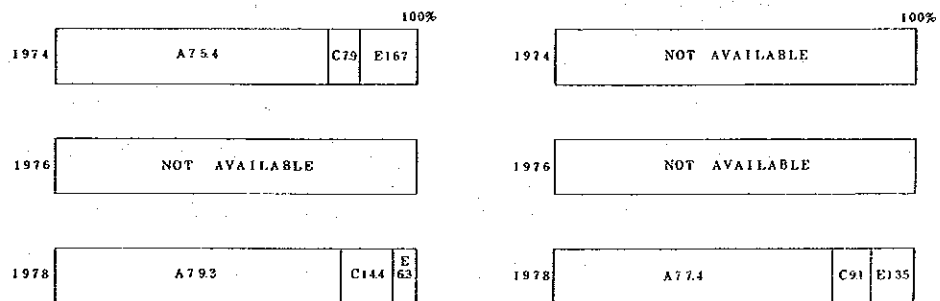
入院患者では内科、小児科とも患者比率の増加傾向を示し、両科の合計比率は58.9% (1974年) から70.6% (1978年) まで増えている。一方、外科の患者は序々に患者比が小さくなってきている。産婦人科は大きな変化を示さない。外来患者では経年変化は知り得なかったが1978年で内科+小児科の比率は69.1%でありおおよそRegion IIの平均値を示している。

次に疾病別の患者数をみると、入院ではGASTRO ENTERITIS、PTB、BRONCHITIS、DISEASE OF THE SKINなどが年度ごとに激しく入れ替り流動的であるが、A型疾患の率は75.4%~79.3%と多いが、フィリピン全体に比べるとかなり低い値である。C型疾患の増加にも注目すべきであろう。外来では経年変化は知り得なかったが、A型は1978年に77.4%を示しこれもフィリピン全体に比べると低い値である。全般的にみて一見、感染系疾病構造からの脱皮を思わせるが、NUEVA VIZCAYA地域の罹病率は圧倒的な感染系構造を示しているので、これは病院側の受入れ体制の問題と言えるだろう。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT
OF MAJ. F. MARCOS VETERAN MEMORIAL HOSPITAL
IN PATIENT OUT PATIENT



PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF MAJ. F. MARCOS VETERAN MEMORIAL HOSPITAL
IN PATIENT OUT PATIENT



平均滞在日数は6.0日でその内訳は内科6.17日、外科10日、小児科5.3日、産婦人科4日である。

病床占有率は84%で調査当日は50%程度の低い率であったがこれは収穫期であった為と思われる。

手術・分娩部門では大手術室1、小手術室1、分娩室1を持ち、年間手術件数は1978年210件(大手術)でLAPALATOMY、APPENDECTOMY、帝王切開、整形手術等が主である。一方分娩は、月平均正常分娩が22~26件、帝王切開6~8件、異常分娩4件位である。

放射線部門では一般撮影とG.I SERIESを行っている。

検査部門は一般検査・化学検査を行っている。

救急活動は救急車2台を使っているが、患者数は定かでない。

トレーニングは、現在レジデント・トレーニングは行っていない。

看護婦トレーニングは近く2人に対して行う。現在ICU用トレーニング1人、ORトレーニング1人が終了したばかりである。看護助手のトレーニングは現在月2回8名に対して行っている。

(II-9) NUEVE VIZCAYA PROVINCIAL HOSPITAL

現在認定50床、現状56床で内科、外科、産婦人科、小児科(含む栄養失調)の主要四科とラボラトリー、歯科、家族計画、放射線の医療サービスを行う。病院としては伝染病対策に力を入れたいとの事である。

マンパワー配員は 医師は院長1名、歯科医1名、レジデント4名の計6名 看護婦は婦長を含め10名、助手6名の計16名、医療技師は薬剤士1名、歯科助手1名、放射線技師1名、検体検査技師1名、物療士3名、計7名、給食要員5名、その他サービス要員6名、メンテ要員3名、輸送要員1名、事務要員5名、総計49名で1床当たり0.875人となっている。

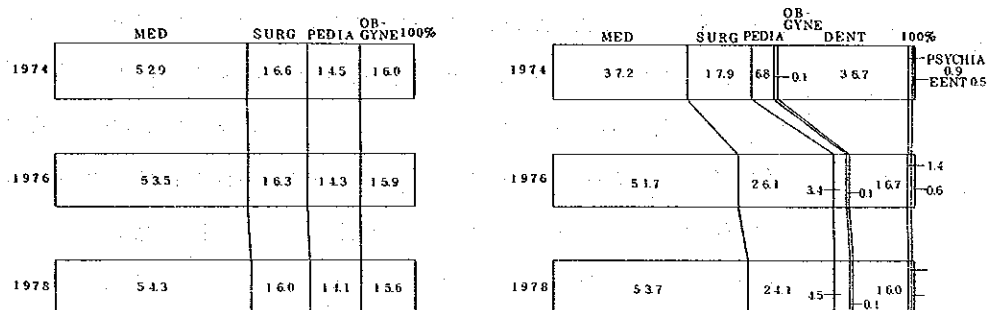
年間患者数は1978年では入院4,034件で漸増し、外来も同じく14,745件で増加している。各科別の内訳をみると、入院患者ではどの科に於てもわずかず増加しているが全体をみて極めて安定した構造を示し、内科の比率はRegion IIの平均を少し上まわって53~54%、その反面小児科及び産婦人科の比率はRegion IIの平均よりはるかに多くなっている。外来は1974年から1976年の間に患者数が急増しそれ以後はおちついているが特に内科の患者の増加が激しく外科の増加もかなり多いが、小児科・歯科はかなりの減少をみている。内科+小児科の比率は44%~58%位まで少しずつ上昇傾向を見せているがRegion II全体の平均からみてかなり低い。

次に疾病別の患者数をみると入院・外来共に外傷(INJURIES)、呼吸器

疾患 (RESIPARATORY)、胃腸病 (GASTRO ENTRETIS)、妊娠併発病 (COMPLICATION OF PREGNANCY) 等が上位を占めていて、その傾向は安定している。

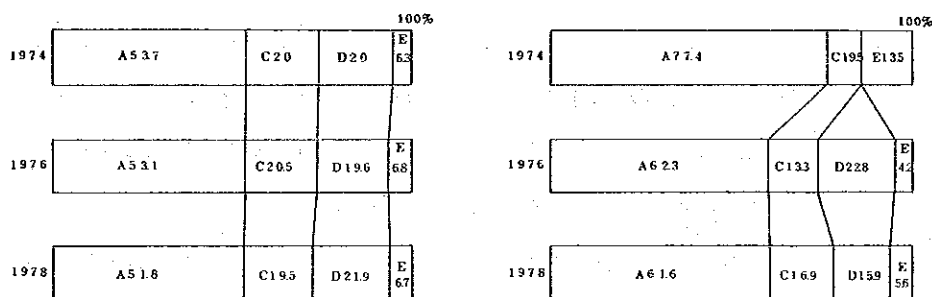
A型疾病は入院で52%~54%であり外来では1976年以後62%~63%と極めて低い率となっている。そしてC型及びD型も20%前後を示し一見疾病構造変化が起った様に思えるがNUEVA VIZCAYAの疾病構造はあくまで感染型構造を示すので、これは病院側の医療受入れ体制が伝染病対策・栄養失調対策を受入れるまでについていない点に理由があるものと思われる。

PATIENT RATE BY DEPARTMENT OF NUEVE VIZCAYA PH
IN PATIENT OUT PATIENT



PATIENT RATE BY LEADING DISEASE
OF NUEVE VIZCAYA PH

IN PATIENT OUT PATIENT



平均滞在日数6.0日、そのうち産婦人科は3日(通常出産の場合)、7日(帝王切開の場合)位である。雨期には患者が多くなり、特にGASTRO-ENTERITISが増加するので患者が増える。病床占有率は90%~95%位である。

手術分娩部門は年間手術件数50~70件(大手術)であり帝王切開、

季節による患者の変化は2月から4月、および10月から12月が特に増加する傾向があり、BRONCHO系疾患、URTIが増える。

平均滞在日数は7日程度で病床占有率は80%である。

手術・分娩部門は極めて遅れていて年間手術件数は1977年で大手術5件、帝王切開2件、小手術487件であった。これは麻酔器材はあるが、麻酔担当医がいないためである。現在、Local Anesticianを時々依頼して簡単な麻酔を行っているだけである。主要手術はAPPENDECTOMY、LAPAROTOMY および帝王切開である。年間出産件数は54件(1977年)でそのうち2件は帝王切開である。手術室1、分娩室1を有す。

放射線部門では一般撮影のみを行っている。また検査部門では一般検査のみで、化学検査は行っていない。

救急活動は年間400件(1978年)で毎年ほんのわずかずつ増加している。救急車はライトがこわれ夜は全く運転できないのが実情である。また、他の島からの救急患者はモーターボートを借りて輸送することも週2~3回位あるとのことである。外国航路の船員の急病に処置サービスを行うケースもよくある。

現在、殺菌器がこわれてクロシンを使用しているし、酸素ポンベは3ヶ月に1度船が来て3本のポンベを入手するが予備は6ポンベある。麻酔ガスポンベは使っていない。給食は患者・職員双方に46食をつくっているが特別食は準備しない。洗濯は院内で手洗であるが時々外部の手を借りることもある。

トレーニングは現在行っていない。

医師は院長1人だけなので、院長がマニラに用があつて出かける時はProvincial Health Officeの医師に留守を依頼している状況である。看護婦に関しては本土からの赴任も珍しいことではなく、現在5人が本土から来ている。

諸島間の医療サービスのつながりは当病院では一般的にDEQUY島、SABTANG 島から患者をつれてくる事が多いが、時々ITBAYATにある救急病院から手に負えぬケースが送られてくることもある。当病院で手に負えぬケースは、マニラ、LAOAGへ航路送られることも多い。

注) 1. ランクの記号 E: Emergency Hospital
 P: Provincial " "
 R: Regional " "
 M: Medical Center

調査対象病院一覧表

病 院 名	所 在 地	ラング	ベッド数		主 診 科 目	特殊診療科目	敷地面積 ㎡	延床面積 ㎡	本館竣工年	敷地の所有
			認定	現状						
I-1 PANGASINAN PROVINCIAL HOSPITAL	Dagupan City	P	200	265	内科、外科、産婦人科、小児科	T B、栄養失調、伝染病棟	16000	8460	1925	Owned by the Government
I-2 BANTOC PROVINCIAL HOSPITAL	Bantoc	P	100	100	内科、外科、産婦人科、小児科	栄養失調	3000	1250	1906 Year R.1947	DOH
I-3 BAGUIO GENERAL HOSPITAL & MEDICAL CENTER	Baguio City	M	350	249	内科、外科、産婦人科、小児科	物療、ICU、CCU、カンセンター、伝染病棟	26000	6500		DOH
I-4 BENGUET PROVINCIAL HOSPITAL	La Trinidad	P	100	119	内科、外科、産婦人科、小児科	栄養失調、伝染病棟	32529	1330	1946	DOH
I-5 LA UNION PROVINCIAL HOSPITAL	San Fernando	P	150	150	内科、外科、産婦人科、小児科	ICU、T B、栄養失調、伝染病棟	40700	2250	1953	DOH
I-6 ABA PROVINCIAL HOSPITAL	Bangued	P	100	110	内科、外科、産婦人科、小児科	伝染病棟	1000	1300	1974	DOH
I-7 GABRIELA SILANG PROVINCIAL HOSPITAL	Vigan	P	100	88	内科、外科、産婦人科、小児科	ICU、栄養失調、伝染病棟	2756	2240		DOH
I-8 DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL	Batac	R	200	100	内科、外科、産婦人科、小児科	ICU、伝染病棟	24245	2170	1967	DOH
I-9 ILOGOS NORTE PROVINCIAL HOSPITAL	Laoag City	P	100	163	内科、外科、産婦人科、小児科	ICU、伝染病棟	12000	1690	1939	DOH
II-1 CAGAYAN REGIONAL HOSPITAL	Tuguegarao	R	200	200	内科、外科、産婦人科、小児科	伝染病棟		1520		
II-2 (REGIONAL MENTAL) NON EXISTING	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
II-3 KALINGA APAYAO PROVINCIAL HOSPITAL	Tabuk	P	100	100	内科、外科、産婦人科、小児科	T B、栄養失調、伝染病棟	60000	1240	1973~76	DOH
II-4 APARRI EMERGENCY HOSPITAL	Aparri	E	25	32	(救急病院)		10000	750	1971	DOH
II-5 ISABELA PROVINCIAL HOSPITAL	Iligan	P	100	100	内科、外科、産婦人科、小児科	栄養失調、T B、伝染病棟	50000	1540	1941	DOH
II-6 QUIRINO PROVINCIAL HOSPITAL	Cabarroguis	P	100	79	内科、外科、産婦人科、小児科		25000		1973	DOH
II-7 IFIGAO PROVINCIAL HOSPITAL	Lagawe	P	75	75	内科、外科、産婦人科、小児科		750	920	1952	DOH
II-8 MAJ MARCOS VETERAN MEMORIAL HOSPITAL	Bayombong	R	200	115	内科、外科、産婦人科、小児科		23325		1945	DOH
II-9 NUEVA VIZCAYA PROVINCIAL HOSPITAL	Bambang	P	50	56	内科、外科、産婦人科、小児科		116257	1320	1976	DOH
II-10 BATANES PROVINCIAL HOSPITAL	Basco	P	75	75	内科、外科、産婦人科、小児科			3540		

病院別医療施設の現況

Region I

病院名	① 診療圏		② 年間患者数		③ 1日平均患者数		④ 年間 出人数	⑤ 年間 手術数 (大のみ)	⑥ 平均 入院 日数	⑦ ベット 使用率	⑧ 主 疾 病 名	⑨ 主 手 術 名	⑩ 主 伝 染 病 名	⑪ 医療スタッフ数		⑫ 救急車 台数
	主地名	人口 10 ³ 人	外来 10 ³ 人	入院 10 ³ 人	外来	入院								医師	看護師	
Pangasinan (P-265B)	Dagupan Calasiao Binmaley	598	53.1 60.6 70.7 90.4	10.7 11.5 13.8 15.5	247.7	250.7	1233 1424 2023 2067	401 357 928 957	5.3	1254	Gastro-Ent. Accident Broncho Pneumo- nia	Appendectomy Exploratory Laparotomy Radical Excision Cesarian Section	PTB Typhoid Influenza	27 44	190	3
Bontoc (P-100B)	Bontoc Sagada Sabangan	153	— — 17.1	— — —	86.7	86.7	192 141 162 172	11 10 41 77	3.7	860	Bronchitis Upper Resp. Inf- ect Influenza	Cesarian Section		17 23	103	1
Baguio (M-249B)	Baguio City Bengnet Prov (Region I の合計)	3487	— — 9.5	— — 12.4	280.0	315.0	— — —	— — —	9.0	900	Upper Resp. Gastro-Ent Thyroid		PTB Broncho Pneumo- nia Bronchitis	44 102	383	2
Benguet (P-119B)	La Trinidad Tublay Ilogon	137	7.7 8.0 20.1 16.3	2.2 2.7 3.3 3.5	93.3	91.8	507 566 640 680	59 58 58 59	7.3	920	Upper Resp. Infect Gastro-Ent Broncho Pneumo- nia	Cesarian Section Appendectomy Thyroidectomy	Pneumonia Gastro-Ent Upper Respiract Infection	15 23	108	1
La Union (P-150B)	San Fernando San Juan Bauang	271	— — —	6.7 6.8 7.5	148.0	153.0	470 588 680 639	255	6.1	1060	Gastro-Ent Pneumonia Influenza	Cesarian Section Appendectomy Exploratory Lap	Gastro-Ent Broncho Pneumo- nia Influenza	25 36	174	2
Abra (P-110B)	Bangled Tayum Bucay	176	5.2 8.3 10.4 11.3	4.2 4.3 2.3 2.1	1.0	7.50	173 164 171 215	69 65 49 64	7.0	750	PTB Gastro-Ent Bronchitis	Appendicitis Cesarian Section Excision Mass	Measles Tetanus Infections Hepatitis	3 16	76	1
Gabriela Silang (P-88B)	Vigan Bantay Caoayan	142	22.7 26.5 30.4 30.2	4.4 5.7 6.2 5.3	6.50	8.00	279 298 308 313	183 173 189 196	4.5	800	PTB URTI Influenza	Appendectomy Hysterectomy Cesarian Section	Measles Hepatitis Infect Viral Disease	9 23	96	1
Don M. Marcos (R-100B)	Ilocos Norte Ilocos Sur Cagayan	414	7.8 13.2 12.5 12.8	2.9 2.9 2.3 2.7	5.20	5.60	106 123 125 161	190 367 355 247	5.0	560	Gastro-Ent Influenza Fractures	Orthopedic Cesarian Section	Gastro-Ent Influenza TB	3 40	143	2
Ilocos Norte (P-163B)	Laoag San Nicolas Sarrat	201	18.2 17.2 20.1 21.9	4.8 5.3 5.1 6.4	8.10	8.50	286 350 386 443	530 663 633 507	4.0	850	Gastro-Ent Influenza Bronchitis	Appendectomy Gastro Exploratory Lap	Measles Typhoid Tetanus	17 33	119	3

注) 1. ①はDOH提供資料及びDOH Comprehensive Hospital Surveyによる。1975

2. ②～⑩は現地調査のQuestionnaireによる。

3. ①、②、③の数字は上から下へ、'75、'76、'77、'78の各年数である。

4. 病院名の下の記号はランクを、数字は病床のベットの数を示す。

病院別医療施設の現況 Region II

病院名	① 診療圏		② 年間患者数		③ 1日平均患者数		④ 年間入院数	④ 年間手術数(大のみ)	⑤ 平均入院日数	⑥ ベッド使用率	⑦ 主疾病名	⑧ 主手術名	⑨ 主伝染病名	⑩ 医療スタッフ数		⑪ 救急車台数
	主地名	人口10万人	外来	入院	外来	入院								医師	全スタッフ	
Gagayan (R-200B)	Tuguegarao	2118	48.5	8.0	250	185	959	509	5.0	800	Gastro-Ent Bronchitis Influenza	Appendectomy Cesarian Section Hysterectomy	Typhoid Fever H-Fever Tetanus Nearatum	23 12	136	1
Kalinga-Apayao (P-100B)	Tabuk Lubuagan Pinukpuk	113	15.0	3.7	130	70	40	138	6.0	700	Malaria Pneumonia Influenza	Appendectomy Cesarian Section Exploratory Lap.	(伝染病様々)	4 23	95	0
Aparri (E-32B)	Aparri Camalanguan Lal-Lo	235	3.0	0.4	167	240	14	29	6.0	959	Gastro-Ent Broncho Pneumonia Bronchitis	Appendectomy C.S.	T. P. Malaria H. F. (伝染病様々)	1 4	21	1
Isabela (P-100B)	Iligan Gamu San Mariano	550	—	—	40	77	40	31	4.2	749	Gastro-Ent Bronchitis Upper Respiratory	Laparotomy Cesarian Section Fractinus	Gastro-Ent. Bronchitis Malaria	12 24	102	1
Quirino (P-73B)	Diflan Cabarroguis Sagdag	74	5.7	2.1	33	50	44	50	5.5	—	Malaria Gastro-Ent Bronchitis	Cesarian Section Appendectomy	Measle Hepatitis (伝染病様々)	2 16	66	0
Ifugao (P-75B)	Potia Moyoyao Hungduan	96	4.3	2.4	80	15	91	73	5.0	496	Acute Bronchitis Influenza URI	Cesarian Section Hysterectomy Enterectomy	Measle Tetanus Hepatitis	2 19	73	1
Maj. F. Marcos (R-115B)	Bayombong Solano Villaverde	943	13.5	3.5	120	84	—	210	5.0	840	Bronchitis Gastro-Ent Inf. Hepatitis	Exploratory Lap. Cesarian Section Appendectomy	—	12 25	103	1
Nueva Vizcaya (P-56B)	Bambang Dupax del Norte " Sur	214	10.2	3.9	60	25~40	70	52	6.0	950	Current Injuries Respiratory Gastro-Ent	Cesarian Section Exploratory Lap Appendectomy	(伝染病様々)	4 10	48	0
Batanes (P-75B)	Basco	398	—	—	70	55	—	—	7.0	800	Bronchitis Broncho Pneumonia Gastro-Ent.	Appendectomy Cesarian Section Laparotomy	TB	1 17	57	1

対象病院別救急活動の現況

上段—良好
下段—要補修

病院名	救急患者数					最寄の 救急病院	使える自動車台数			ドライバー メカ
	1974	1975	1976	1977	1978		救急車	ジープ	他	
Pangasinan						12Km	1 1	1 0	1 0	3 *
Bontoc	185	330	294	269	229	ナシ	1 0	0 0	1 0	3
Baguio						市内に数 ヶ所有	3			
Benguet	4,273	5,446	6,273	6,200	6,963	5Km				
La Union	6,217	7,277	7,343	8,099	10,151	3Km	1 0	0 0	1 0	3
Abra	372	438	873	610	356	ナシ	0 1	0 0	0 0	2
Gabriela Silang	4,825	6,705	6,471	8,406	6,637	1.5Km	1 1			3 *
Don M. Marcos	292	320	345	1,532	962		0 1			1
Ilocos Norte	831	898	1,103	1,137	1,130	市内数ヶ所				
Cagayan	32,555	32,920	33,650	34,380	45,475		1 0	1 0		4 *
Kalinga Apayao	671	1,241	1,689	837	456	ナシ				
Aparri						12Km	1 0	0 0	0 0	1
Isabela							2	旧式		3
Quirino	112	130	170	230	298		0 0	1 0	0 0	1
Ifugao	144	180	160	175	169		1 0	0 0	1 2	1 1
Maj. F. Marcos						5Km	1 1	2 0	0 0	2 1
Nueva Vizcaya	907	1,753	2,015	2,039	2,050	15Km			1 0	0
Batanes	210	230	241	370	400	ナシ	0 1	0		1 1

*ドライバー
がメカを
できる場合

Cagayan RH の救急患者数には疑問あり。

IN PATIENT BY DEPARTMENT
入院患者 - 各科別入院患者比率

UPPER - 1974
MIDDLE - 1976
LOW - 1978

	NEW ADMISSION		MEDICINE		SURGERY		PEDIATRICS		OB-GYNE		DENTAL		EENT		PSYCHIATRICS		Q U	
	総入院件数	%	内科入院件数	%	外科入院件数	%	小児科入院件数	%	産婦人科入院件数	%	歯科入院件数	%	耳鼻咽喉科入院件数	%	精神科入院件数	%		%
1. PANGASIAN PH	10,066 13,015	100.0	3,274 3,661	32.5 28.1	2,002 2,603	19.9 20.0	2,697 2,813	26.8 21.8	2,805 3,938	27.9 30.3								
2. BONTOO PH	NOT AVAILABLE																	
3. BAGUIO GENERAL HOS & MC	NOT AVAILABLE																	
4. BENGUET PH	2,250 2,705 3,575	100.0	856 1,046 1,270	38.0 38.7 35.5	175 145 367	7.8 5.4 10.3	651 834 1,143	28.9 30.8 32.0	568 860 795	25.2 25.1 22.2								
5. LA UNION PH	5,860 6,779 7,512	100.0	2,727 3,036 3,196	46.5 44.8 42.5	775 779 794	13.2 11.5 10.6	1,586 1,906 2,232	27.0 28.1 29.7	693 1,007 1,236	11.8 14.9 16.5	7 6 5	0.1 0.1 0.1	72 45 49	1.2 0.7 0.7				
6. ABRA PROVINCIAL PH	3,189 4,194 2,138	100.0	1,124 1,863 952	35.2 44.4 44.5	422 560 347	13.2 13.4 16.2	1,332 1,471 613	41.8 35.0 28.7	301 279 206	9.4 6.7 9.6			10 20 20	0.3 0.5 0.9	1	0		
7. GABRIELA SILANG PH	4,171 5,709 5,323	100.0	2,351 3,484 2,590	56.4 61.0 48.7	525 588 939	12.6 10.3 17.6	833 1,017 782	20.0 17.8 1.7	437 580 960	10.5 10.2 10.0	25 40 52	0.6 0.7 1.0						
8. DON MARIANO MARCOS MEMO.	3,542 2,867 2,717	100.0	1,764 1,485 1,347	49.8 51.8 49.6	963 680 619	27.2 23.7 22.8	419 267 301	11.8 9.3 11.1	269 276 361	7.6 9.6 13.3	0 4 1	0 0.1 0	126 154 84	3.6 5.4 3.1	1 1 4	0 0 0.1		
9. ILOCOS NORTE PH	4,761 5,547 6,388	100.0	2,058 2,224 3,110	43.2 40.8 48.7	900 1,004 1,149	18.9 18.4 18.0	1,007 1,144 1,106	21.2 21.0 17.3	650 832 843	13.7 15.3 13.2			39 53 67	0.8 1.0 1.0			107 190 109	2.2 3.5 1.7
REGION I TOTAL	23,773 38,447 40,668	100.0	10,880 16,412 16,126	45.8 42.1 39.7	3,760 5,758 6,818	15.8 15.0 16.8	5,828 9,336 8,990	24.5 24.2 22.1	2,918 6,459 8,339	12.3 16.4 20.5	32 50 60	0.1 0.1 0.1	247 272 220	1.0 0.7 0.5	1 2 4	0.1 0.1 0	107 190 107	0.5 0.5 0.3
1. GAGAYAN REGIONAL HOS	7,208 8,507 10,026	100.0	3,056 3,821 3,434	42.4 44.9 34.3	954 1,051 2,121	13.2 12.4 21.2	1,560 1,593 1,985	21.6 18.7 19.8	1,081 1,457 1,839	15.0 17.1 18.3	28 30 50	0.4 0.4 0.5	529 555 597	7.3 6.5 6.0				
2. REGIONAL MENTAL HOS	NO EXISTING																	
3. KALINGA PH	4,242 4,094 3,961	100.0	2,260 3,144 2,200	53.3 76.8 55.5	114 272 172	2.7 6.6 4.3	1,780 1,494 1,400	42.0 36.5 35.3	88 111 189	2.1 2.7 4.8								
4. APARRI EM	1,205 1,250 4,549	100.0	646 700 2,264	53.6 56.0 50.5	75 124 874	6.2 9.9 0.2	353 358 478	29.3 28.6 0.1	131 68 8	10.9 5.4 0								
5. ISABELA PH	5,746 6,800	100.0	2,990 3,129	0.7 0.5	722 1,854	0.1 0.3	1,406 2,214	0.2 0.3	519 622	0.1 0.1	12 16 1	0 0 0	33 12	0 0				
6. QUIRINO PH	2,747 5,175 6,084	100.0	1,796 2,706 2,722	65.4 52.3 44.7	170 722 1,410	6.2 14.0 31.2	722 1,608 1,038	26.3 31.1 17.1	56 136 910	2.0 2.6 15.0	3 3 4	0 0 0						
7. IRUGAO PH	2,386 2,446 2,678	100.0	1,034 1,192 1,190	43.3 48.7 44.4	301 195 252	12.6 8.0 9.4	804 564 961	33.7 23.0 35.9	165 460 235	6.9 18.8 8.8	12 9 8	0.5 0.4 0.3	70 26 32	2.9 1.1 1.2				
8. MAJ. F. MARCOS VETERAN M. HOS	3,133 3,685 5,300	100.0	1,138 1,491 2,247	36.3 40.5 42.4	651 486 594	20.8 13.2 11.2	708 998 1,511	22.6 27.1 28.5	412,146 393,169 633,281	17.8 15.3 17.2	1 * 34	0 0.6	77 35,113	2.5 4.0				
9. NUEVA VIZCAYA PH	3,804 3,926 4,034	100.0	2,012 2,102 2,192	52.9 53.5 54.3	633 639 645	16.6 16.3 16.0	550 561 567	14.5 14.3 14.1	609 624 630	16.0 15.9 15.6								
10. BATANES PH	2,701 2,588	100.0	995 1,112	36.8 43.0	172 208	6.4 8.0	1,447	53.6	68	2.5	12 19 34	100.0 0.7 100.0						
REGION II TOTAL	27,156 38,412 43,753	100.0	13,560 19,087 18,926	49.9 49.7 44.3	3,697 4,334 7,256	13.6 11.3 16.6	6,602 10,084 11,198	24.3 26.3 25.6	2,565 4,068 5,485	9.4 10.6 12.5	28 127	0.3	641	1.6				

*1. Based on the direct hearing on the hospital

*2. Include EENT Patients

SOURCES FIELD STUDY QUESTIONARE

OUT PATIENT BY DEPARTMENT
外来患者 - 各科別外来患者比率

上段 - 1974
中段 - 1976
下段 - 1978

	OPD-ATTENDANCE		MEDICINE		SURGERY		PEDIATRICS		OB-GYNE		DENTAL		PSYCHIATRICS		EENT		GU	
	総外来件数		内科外来件数		外科外来件数		小児科外来件数		産婦人科外来件数		歯科外来件数		精神科外来件数		耳鼻咽喉科外来件数		泌尿器科外来	
		%		%		%		%		%		%		%		%		
1. PANGASIAN PH	61,397 60,630 90,426	100.0																
2. BANTOC PH	NOT AVAILABLE																	
3. BAGUIO GENERAL HOS & MC	NOT AVAILABLE																	
4. BENGUET PH	5,626 7,962 16,282	100.0	2,288 3,208 9,037	40.7 40.3 55.5	674 1,014 1,568	12.0 12.7 9.6	2,370 3,225 1,258	42.1 40.5 7.7	293 387 2,275	5.2 4.9 14.0	133 2,144	1.7 13.2						
5. LA UNION PH	NOT AVAILABLE																	
6. ABRA PH	4,276 8,272 11,307	100.0	1,420 3,536 5,255	33.2 42.7 46.5	450 1,413 2,009	10.5 17.1 17.8	1,146 1,909 2,368	26.8 23.1 20.9	558 339 484	13.0 4.1 4.3	672 1,055 1,161	15.7 12.8 10.3	30 20 30	0.7 0.2 0.3	1	0		
7. GABRIELA SILANG PH	19,825 26,473 30,174	100.0	4,252 5,421 6,929	21.4 20.5 23.0	2,586 3,698 3,620	13.0 17.7 15.3	3,892 6,385 7,411	19.6 23.8 24.6	2,645 2,981 3,630	13.3 11.1 12.0	6,450 6,988 7,584	32.5 26.4 25.1						
8. DON MARIANO MARCOS MEMO	12,839 13,254 12,811	100.0	5,003 5,538 8,102	39.0 41.8 63.2	537 272 202	4.2 2.1 1.6	1,779 1,346 1,868	13.9 10.2 14.6	246 147 299	1.9 1.1 2.3	2,227 3,438 2,171	17.3 25.9 16.9	2,904 2,503 169	22.6 9.5 1.3	143 10 0	1.1 0.1 0		
9. ILOCOS NORTE PH	16,168 17,197 16,794	100.0	7,531 6,282 8,396	46.6 36.5 50.0	3,108 3,166 595	19.2 18.4 3.5	2,998 2,412 3,818	18.5 14.0 22.7	381 580 725	2.4 3.4 4.3	1,990 4,274 2,749	12.3 24.8 16.4	109 385 311	0.7 2.2 1.9			51 98 215	0.3 0.6 1.3
REGION I TOTAL	53,733 73,158 87,368	100.0	20,494 23,985 37,719	34.9 32.8 43.2	7,355 10,563 8,984	12.5 14.4 10.3	12,185 15,277 16,723	20.7 20.9 19.1	4,123 4,434 7,413	7.0 6.1 8.5	11,339 15,888 15,806	19.3 21.7 18.1	3,043 2,908 510	5.2 4.0 0.6	143 11 0	0.2 0.1 0	51 98 215	0.1 0.1 0.2
1. CAGAYAN REGIONAL HOS	46,396 50,512 54,628	100.0	12,557 13,243 13,929	27.1 26.2 25.5	7,646 8,332 9,018	16.5 16.5 16.5	12,786 13,472 14,158	27.6 26.7 25.9	8,985 9,671 10,357	19.4 19.1 19.0	2,456 3,142 3,828	5.3 6.2 7.0	1,966 2,552 3,338	4.2 5.3 6.1				
2. REGIONAL MENTAL HOS	NO EXISTING																	
3. KALINGA PH APAYAO	5,543 26,745 16,254	100.0	2,592 12,277 4,807	46.8 45.9 29.6	1,468 4,910 2,521	26.5 18.4 15.5	1,392 7,378 2,678	25.1 27.6 16.5	91 329 494	1.6 1.2 3.0	1,851 5,754	6.9 35.4						
4. APARRI EH	8,160 6,103	100.0	3,141 2,324	38.4 38.1	836 721	10.2 11.8	3,993 2,775	48.9 45.5	190 283	2.3 4.6								
5. ISABELA PH	11,120 12,588 16,792	100.0	4,890 4,847 7,287	44.0 38.5 43.4	1,958 2,917 4,593	17.6 23.2 27.4	2,676 2,774 3,176	24.1 22.0 18.9	1,297 1,527 1,236	11.7 12.1 7.4	144 217 214	1.3 1.7 1.3	155 306 286	1.4 2.4 1.7				
6. QUIRINO PH	7,638 7,492 14,024	100.0	3,51 3,235 6,410	46.0 43.2 45.7	446 774 909	5.8 10.3 6.5	2,891 2,696 5,361	37.1 36.0 38.2	371 742 1,288	4.8 9.9 9.2	853 45 56	11.2 0.6 0.4	36 45 0.4	0.5 0.6 0.4				
7. IFUGAO PH	4,221 5,015 8,129	100.0	1,401 1,166 4,128	33.2 23.3 50.8	668 912 1,410	15.8 18.2 17.3	1,171 1,721 2,198	27.7 34.3 27.0	165 460 235	3.9 9.2 2.9	379 372 47	9.0 7.4 0.6	437 384 111	10.4 7.7 1.4				
8. MAJ. F. MARCOS VETERAN M. HOS	11,362 17,643 21,033	100.0	10,864	51.7	3,880	18.4	3,653	17.4	1,384	6.6	1,252	6.0						
9. NUEVA VIZCAYA PH	5,897 13,562 14,745	100.0	2,191 7,015 7,919	37.2 51.7 53.7	1,054 3,536 3,550	17.9 26.1 24.1	400 456 667	6.8 3.4 4.5	8 10 16	0.1 0.1 0.1	2,166 2,268 2,363	36.7 16.7 16.0	51 195 209	0.9 1.4 1.4	27 82 21	0.5 0.6 0.1		
10. BATANES PH	11,095 13,500	100.0	5,085 6,091	45.9 45.1	591 681	5.3 5.1	3,773 5,078	34.0 37.6	281 382	2.5 2.8	1,355 1,264	12.2 9.4						
REGION II TOTAL	80,815 135,159 165,200	100.0	27,143 50,009 63,759	33.6 37.0 38.6	13,240 22,808 27,287	16.4 16.9 16.5	21,316 36,263 39,744	26.4 26.8 24.1	11,399 13,210 15,675	4.1 9.8 9.5	5,181 9,250 14,778	6.4 6.8 8.9						

SOURCES: FIELD STUDY QUESTIONARE

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位		第8位		第9位		第10位		上位10位総計
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	
1. CAGAYAN REGIONAL HOSP	胃腸炎(A)	21.3	気管支炎(A)	16.0	インフルエンザ(A)	14.5	マラリア(A)	13.6	肺炎(A)	12.7	百日咳(A)	8.2	はしか(B)	7.6	赤痢(A)	5.0	下痢(A)	1.2			2,008.3
	胃腸炎	17.8	気管支炎	13.6	インフルエンザ	12.3	マラリア	11.7	肺炎	10.9	下痢(A)	10.6	赤痢(A)	8.4	百日咳(A)	7.4	はしか(B)	7.4			2,536.4
	胃腸炎	17.3	気管支炎	13.4	インフルエンザ	12.3	マラリア	11.7	肺炎	11.0	下痢		赤痢	8.6	百日咳	7.7	はしか	7.3			2,731.7
	4,275	21.3	3,210	16.0	2,903	14.5	2,730	13.6	2,545	12.7	1,641	8.2	1,535	7.6	998	5.0	246	1.2			
3. KALINGA APAYAO PROVINCIAL HOSP	マラリア(A)	21.5	インフルエンザ(A)	16.7	V R T (A)	11.7	気管支炎(A)	11.2	胃腸炎(A)	9.8	胃炎(A)	7.8	肺炎(A)	6.9	不慮事故(D)	5.5	貧血(D)	4.9	下痢(E)	3.9	2,826
	U R T (A)	27.4	マラリア(A)	18.8	不慮事故(D)	10.3	インフルエンザ(A)	9.5	気管支炎(A)	8.6	胃炎(A)	1.9	貧血(B)	5.2	胃腸炎(A)	5.1	肺炎(A)	4.8	下痢(E)	3.4	1,433.2
	マラリア(A)	21.0	インフルエンザ(A)	20.3	気管支炎(A)	13.3	V R T (A)	11.5	胃腸炎(A)	8.6	胃炎(A)	7.7	肺炎(A)	5.4	不慮事故 D	5.1	貧血 E	4.1	下痢(E)	2.9	5,506
	609	21.5	471	16.7	332	11.7	317	11.2	277	9.8	221	7.8	196	6.9	155	5.5	138	4.9	110	3.9	
4. CAGAYAN PROVINCIAL HOSP	その他	45.0	胃腸炎	8.3	気管支肺炎	6.7	インフルエンザ	6.4	皮膚病	6.3	呼吸感染症	6.2	婦人科の疾患	5.9	外科的疾患	5.4	肝炎	5.0	気管支炎	4.7	7,859
	その他	32.6	胃腸炎	10.3	気管支肺炎	9.8	インフルエンザ	9.1	呼吸感染症	8.5	外科的疾患	8.4	気管支炎	6.7	婦人科の疾患	5.7	肝炎	1.7	腎盂腎炎	3.1	5,941
	胃腸炎(A)	36.1	気管支炎(A)	11.4	マラリア(A)	9.8	URTI (A)	9.0	事故(D)	8.9	気管支結核(A)	6.9	インフルエンザ(A)	7.1	性泌尿器疾患(D)	7.1	肺炎(A)	3.8		6,435	
	1,938	32.6	610	10.3	581	9.8	540	9.1	506	8.5	498	8.4	401	6.7	340	5.7	340	1.7	187	3.1	
5. ISABELA PROVINCIAL HOSP	胃腸炎(A)	36.1	気管支炎(A)	11.4	マラリア(A)	9.8	URTI (A)	9.0	事故(D)	8.9	気管支結核(A)	6.9	インフルエンザ(A)	7.1	性泌尿器疾患(D)	7.1	肺炎(A)	3.8			6,435
	"		"		"		"		"		"		"		"		"				
	1,843	25.5	992	13.7	830	11.5	689	9.5	704	9.7	698	9.7	573	7.9	594	8.2	309	4.3			7,232
	1,924	22.3	1,203	14.0	1,019	11.8	796	9.2	864	10.0	739	8.6	768	8.9	718	8.3	578	6.7			8,609
6. QUIRINO PROVINCIAL HOSP	マラリア(A)	31.6	Koch's (A)	19.6	胃腸炎(A)	16.5	高血圧(B)	15.4	潰瘍(B)	7.8	インフルエンザ(A)	3.1	気管支炎(A)	2.4	URTI (A)	1.9	URTI (A)	1.0	肺炎(A)	0.7	6,403
	マラリア(A)	26.0	胃腸炎(A)	21.3	Koch's (A)	19.0	高血圧(B)	9.4	インフルエンザ	6.0	潰瘍(B)	5.3	URTI (A)	4.3	気管支炎(A)	3.8	URTI (A)	3.2	肺炎(A)	1.7	5,881
	マラリア(A)	30.7	胃腸炎(A)	25.9	Koch's (A)	23.4	高血圧(B)	4.7	URTI (A)	4.6	インフルエンザ	3.3	肺炎(A)	3.2	URTI (A)	2.7	潰瘍(B)	1.5			7,910
	2,022	31.6	1,258	19.6	1,055	16.5	984	15.4	502	7.8	201	3.1	151	2.4	122	1.9	63	1.0	45	0.7	
7. IFUGAO PROVINCIAL HOSP	急性気管支炎(A)	16.2	気管支肺炎(A)	13.7	急性扁桃腺炎(A)	13.4	インフルエンザ(A)	13.0	URTI (A)	10.5	肺結核(A)	9.0	マラリア(A)	8.0	急性大腸炎(A)	6.8	肺炎 A	5.6	急性胃腸炎(A)	3.8	2,764
	急性気管支炎(A)	22.1	気管支肺炎(A)	16.5	急性扁桃腺炎(A)	14.3	インフルエンザ(A)	9.3	肺結核(A)	7.6	急性大腸炎(A)	7.4	マラリア(A)	7.1	急性扁桃腺炎(A)	6.7	肺炎 A	4.7	急性胃腸炎(A)	4.2	2,358
	気管支肺炎(A)	24.1	URTI (A)	11.8	急性気管支炎(A)	14.6	マラリア(A)	7.8	急性大腸炎(A)	7.6	急性胃腸炎(A)	7.6	インフルエンザ(A)	6.6	肺結核(A)	6.1	急性扁桃腺炎(A)	5.0	肺炎(A)	5.0	1,785
	448	16.2	378	13.7	369	13.4	360	13.0	290	10.5	250	9.0	220	8.0	188	6.8	156	5.6	105	3.8	
8. MAJ. F. MARCOS VETERAN MEMO HOSP	その他		気管支炎 A		肺結核(A)		胃腸炎(A)		皮膚病(E)		その他の消化器不良(A)		妊娠併発病(C)		インフルエンザ(A)		肝炎(A)		マラリア(A)		2,395
	呼吸疾患(A)	30.5	外傷(D)	23.2	気管支炎(A)	12.9	胃腸炎(A)	9.9	インフルエンザ(A)	6.7	正常分娩(C)	4.9	妊娠併発病(C)	4.8	泌尿生殖器の疾患(E)	3.6	消化不良(A)	2.3	肺結核(A)	1.2	2,977
	呼吸疾患(A)	26.3	外傷 D	22.8	胃腸炎(A)	17.1	正常分娩(C)	6.9	妊娠併発病(C)	6.4	肺結核(A)	5.1	泌尿生殖器の疾患(E)	4.4	インフルエンザ(A)	4.2	消化不良(A)	3.5	気管支炎(A)	3.4	7,648
	907	30.5	692	23.2	384	12.9	296	9.9	199	6.7	146	4.9	143	4.8	106	3.6	68	2.3	36	1.2	
9. NUEVA VIZCAYA PROVINCIAL HOSP	呼吸疾患(A)	25.2	外傷(D)	15.9	胃腸炎(A)	13.5	消火器不良(A)	9.1	妊娠併発病(C)	10.3	肺結核(A)	6.9	正常分娩(C)	6.6	泌尿生殖器の疾患(E)	5.6	インフルエンザ(A)	4.3	気管支炎(A)	2.6	8,128
	呼吸疾患(A)	25.2	外傷(D)	15.9	胃腸炎(A)	13.5	消火器不良(A)	9.1	妊娠併発病(C)	10.3	肺結核(A)	6.9	正常分娩(C)	6.6	泌尿生殖器の疾患(E)	5.6	インフルエンザ(A)	4.3	気管支炎(A)	2.6	8,128
	2,015	26.3	1,744	22.8	1,308	17.1	525	6.9	486	6.4	387	5.1	336	4.4	325	4.2	265	3.5	257	3.4	
	2,048	25.2	1,296	15.9	1,098	13.5	738	9.1	839	10.3	558	6.9	537	6.6	457	5.6	350	4.3	213	2.6	
10. BATANES PROVINCIAL HOSP																					

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位		第8位		第9位		第10位				
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%			
1. CAGAYAN REGIONAL HOSP	胃腸炎 (A)	952 31.6	気管支炎 (A)	930 30.9	インフルエンザ (A)	352 11.7	マラリア (A)	292 9.7	肺炎 (A)	143 4.8	下痢 (A)	81 2.7	肺結核 (A)	71 2.4	赤痢 (A)	71 2.4	百日咳 (A)	63 2.1	麻疹 (A)	55 1.8	3.010		
	胃腸炎 (A)	1,214 31.1	気管支炎 (A)	1,058 27.1	インフルエンザ (A)	440 11.3	マラリア (A)	380 9.7	肺炎 (A)	231 5.9	下痢 (A)	169 4.3	肺結核 (A)	156 4.0	百日咳 (A)	88 2.3	麻疹 (B)	82 2.1	赤痢 (A)	81 2.1	3.899		
	胃腸炎 (A)	1,544 30.3	気管支炎 (A)	1,177 23.1	インフルエンザ (A)	559 11.0	マラリア (A)	499 9.8	肺炎 (A)	350 6.7	下痢 (A)	287 5.6	肺結核 (A)	275 5.4	赤痢 (A)	200 3.9	百日咳 (A)	110 2.2	麻疹 (B)	98 1.9	5.100		
2. REGIONAL MENTAL HOSP																							
3. KALINGA-APAYAO PROVINCIAL HOSP	U.R.T. (A)	1,402 25.4	インフルエンザ (A)	1,003 18.2	マラリア (A)	860 15.6	気管支炎 (A)	744 13.5	不慮事故 (D)	416 7.5	胃炎・消化器潰瘍 (A)	354 6.4	胃腸炎 (A)	252 4.6	下痢 (A)	202 3.7	貧血 (B)	178 3.2	肺炎 (A)	104 1.9	5.515		
	マラリア (A)	880 23.6	インフルエンザ (A)	753 20.2	U.R.T. (A)	420 11.3	気管支炎 (A)	364 9.8	胃炎・消化器潰瘍 (A)	315 8.5	胃腸炎 (A)	295 7.9	肺炎 (A)	244 6.5	不慮事故 (D)	216 5.8	貧血 (B)	124 3.3	下痢 (A)	116 3.1	3.727		
	肺炎 (A)	910 30.1	マラリア (A)	470 15.5	インフルエンザ (A)	369 12.2	気管支炎 (A)	304 10.0	U.R.T. (A)	271 9.0	不慮事故 (D)	176 5.8	胃腸炎 (A)	175 5.8	胃炎・消化器潰瘍 (A)	128 4.2	貧血 (B)	113	下痢 (A)	109 3.6	3.025		
4. CAGAYAN PROVINCIAL HOSP	その他	338	気管支肺炎 (A)	152 17.5	胃腸炎	148 17.1	呼吸感染症	96 11.1	気管支炎	94 10.8	裂傷	92 10.6	外科的疾患	92 10.6	マラリア	81 9.3	腎盂腎炎	41 4.7	インフルエンザ	37 4.3	婦人科の疾患	34 3.9	8.67
	その他	275	気管支肺炎 (A)	181 18.6	呼吸感染症	126 12.9	胃腸炎	98 10.1	外科的疾患	92 9.4	インフルエンザ	87 8.9	マラリア	85 8.7	婦人科の疾患	82 8.4	気管支炎	81 8.3	腎盂腎炎	81 8.3	裂傷	62 6.4	9.75
	胃腸病 (A)	512 29.4	マラリア (A)	324 18.6	事故 (D)	210 12.0	U.R.T. (A)	176 10.1	気管支炎 (A)	156 8.9	気管支結核 (A)	143 8.2	インフルエンザ (A)	97 5.6	性泌尿疾患 (B)	83 4.8	肺炎 (A)	43 2.5					1.744
5. ISABELA PROVINCIAL HOSP (下段は1977年)	胃腸病 (A)	681 23.6	気管支炎 (A)	401 13.9	マラリア (A)	380 13.2	気管支結核 (A)	345 12.0	U.R.T. (A)	285 9.9	インフルエンザ	263 9.1	性泌尿疾患 (B)	233 8.1	肺炎 (A)	159 5.5	事故 (D)	139 4.8					2.886
	胃腸病 (A)	914 24.1	気管支炎 (A)	496 13.1	マラリア (A)	429 11.3	U.R.T. (A)	396 10.4	事故 (D)	388 10.2	気管支結核	384 10.1	インフルエンザ (A)	310 8.2	性泌尿疾患 (B)	309 8.2	肺炎 (A)	164 4.3					3.790
	マラリア (A)	732 29.1	胃腸炎 (A)	680 27.0	高血圧 (B)	169 6.7	インフルエンザ (A)	160 6.4	U.R.T. (A)	146 5.8	気管支炎 (A)	138 5.5	潰瘍 (B)	127 5.0	UTI (A)	123 4.9	結核 (A)	122 4.8	肺炎 (A)	121 4.8			2.518
6. QUIRINO PROVINCIAL HOSP	マラリア (A)	1,056 24.5	胃腸炎 (A)	925 21.4	U.T.I. (A)	462 10.7	気管支炎 (A)	391 9.1	結核 (A)	310 7.2	インフルエンザ (A)	282 6.5	肺炎 (A)	250 5.8	高血圧 (B)	221 5.1	潰瘍 (A)	212 4.9	UTI (A)	205 4.8			4.314
	マラリア (A)	750 27.2	胃腸炎 (A)	700 25.4	潰瘍 (B)	210 7.6	肺炎 (A)	191 6.9	インフルエンザ (A)	182 6.6	U.R.T.I. (A)	180 6.5	マラリア (A)	152 5.5	高血圧 (B)	140 5.1	結核 (A)	135 4.9	高血圧 (B)	120 4.3			2.760
	急性気管支炎 (A)	445 16.6	ウィルス感染症 (A)	370 13.8	急性扁桃腺炎 (A)	367 13.7	インフルエンザ (A)	349 13.0	U.R.I. (A)	285 10.7	マラリア (A)	218 8.1	肺結核 (A)	204 7.6	急性大腸炎 (A)	184 6.9	肺炎 (A)	154 5.8	急性胃腸炎 (A)	99 3.7			2.675
7. IFUOAO PROVINCIAL HOSP	急性気管支炎 (A)	518 21.2	ウィルス感染症 (A)	378 14.1	U.R.I. (A)	328 12.3	インフルエンザ (A)	218 8.1	マラリア (A)	158 5.9	急性扁桃腺炎 (A)	153 5.7	肺結核 (A)	121 4.5	急性大腸炎 (A)	109 4.1	肺炎 (A)	107 4.0	急性胃腸炎 (A)	93 3.5			2.183
	ウィルス感染症 (A)	427 25.2	急性気管支炎 (A)	255 15.0	U.R.I. (A)	254 15.0	マラリア (A)	134 7.9	急性大腸炎 (A)	132 7.8	急性胃腸炎 (A)	129 7.6	インフルエンザ (A)	106 6.3	急性扁桃腺炎 (A)	92 5.4	肺炎 (A)	87 5.1	急性胃腸炎 (A)	79 4.7			1.695
	その他	851	胃腸炎 (A)	402 23.3	その他の消化器不良 (A)	334 19.3	皮膚病 (B)	289 16.7	インフルエンザ (A)	260 15.0	妊娠併発病 (C)	136 2.9	気管支炎 (A)	128 7.4	肺結核 (A)	116 6.7	マラリア (A)	64 3.7					1.729
8. MAJ. F. MARCOS VETERAN MEMO HOSP	その他	1,177	肺結核 (A)	401 21.0	気管支炎 (A)	331 17.4	胃腸炎 (A)	313 16.4	妊娠併発病 (C)	275 14.4	その他の消化器不良 (A)	228 12.0	皮膚病 (B)	119 6.2	インフルエンザ (A)	93 4.9	肝炎 (A)	85 4.5	マラリア (A)	60 3.1			1.905
	外傷 (D)	431 20.1	呼吸疾患 (A)	307 14.3	胃腸炎 (A)	260 12.1	妊娠併発病 (C)	260 12.1	正常分娩 (C)	170 7.9	肺結核 (A)	169 7.9	インフルエンザ (A)	165 7.7	泌尿生殖器の疾患 (B)	135 6.3	気管支炎 (A)	130 6.1	消化不良 (A)	120 5.6			2.147
	外傷 (D)	447 19.6	呼吸疾患 (A)	312 13.6	胃腸炎 (A)	275 12.0	妊娠併発病 (C)	269 11.8	正常分娩 (C)	200 8.7	肺結核 (A)	191 8.4	インフルエンザ (A)	157 6.9	泌尿生殖器の疾患 (B)	156 6.8	気管支炎 (A)	147 6.4	消化不良 (A)	132 5.8			2.286
9. NUEVA VIZCAYA PROVINCIAL HOSP	外傷 (D)	570 21.9	呼吸疾患 (A)	330 12.7	胃腸炎 (A)	292 11.2	妊娠併発病 (C)	289 11.1	正常分娩 (C)	219 8.4	肺結核 (A)	211 8.1	インフルエンザ (A)	195 7.5	泌尿生殖器の疾患 (B)	173 6.7	気管支炎 (A)	163 6.3	消化不良 (A)	155 6.0			2.597
10. BATANES PROVINCIAL HOSP																							

Ⅲ-2 インフラ施設の現況

1) 建 物

(I-1) PANGASINAN PROVINCIAL HOSPITAL

(a) 既存建物

ダグバン市(DAGUPAN CITY)の中心から海岸に向かって500m程行くと国道沿いのヤシの木立が糸杉に替り、その間からコロニアル風の白い建物がみえる。敷地に入ると国道に面した糸杉の繁る庭園を前面に配し、通路を隔て、車寄を持った木造の2階建の建物を中央に、右に事務、左に外来の棟がシンメトリーに配置されている。その奥に診療棟、ICU-CCU棟、病棟、洗濯、厨房等が棟を接し、1.6haの敷地一杯に建てられている。永年建築を重ね規模を拡大しているため、建物の新旧のみならずその構造も木造、コンクリート造等さまざまである。建物がよく維持管理されているので使用には耐うるが、棟間隔が狭く、平家の連続した棟配置では風通しが悪く、迷路のような動線が続き、患者にとってよい環境とはいえない。一番の問題点は火災、地震等災害時の患者の避難に際し木造の建物、入組んだ通路は、その害を大きくするだろうと予測されることである。

(b) 新敷地

ダグバン市の既設病院からおよそ7km離れた海岸の沿いである。この区域はボヌアン地区(BONUAN DISTRICT)と呼ばれ、地域一帯はダグバン市の都市計画区域に指定されている。現在、砂丘にヤシ林と民家が点在しているが、養魚・養殖用の池が国道沿いにみることが出来る漁村である。住居地区の住宅工事の一部が着工し、将来は25,000人の居住区となる。同時に小中学校、高校、単科大学も計画され、更にショッピング、センターやスポーツ施設も考えられている。しかし、この地帯は海岸の延長であり、砂丘である点、地盤調査を徹底し、地震時に起る[※]流砂現象による被害防止対策と、塩害対策を特に考慮されねばならない。

新敷地は6haあるが、現在東北の角、国道(SAN FABIAN ROAD)に接し、十字型の平面プランをした25病床のDONA TEODORA D. MAN-
AOIS MEMORIAL 病院がある。建物規模は平屋建、950m²程、鉄筋コンクリート造(屋根は木造トラスに亜鉛鉄板葺)で完成後4年を経過し、まだ新しく、事務棟や病棟に転用が可能である。この建物を一辺約120mのコンクリ

※ 流砂現象……liquefactive apparition 水分を含んだ砂に強い振動を与えるとき、砂が液体のように流動性を帯びてくる現象。大地震の際問題となる。日本の新潟地震(1964年)ではこの現象で建物が傾斜、沈下、転倒した。

ート・ブロック塀と正面国道との境界に設けられた金網フェンスにより取囲み
建物北側に給水塔がある。それ以外の施設は無く、ただ平坦な地形が海に向っ
て続きヤシの木立が広い敷地に点在しているのみである。



New site from approach road



Main building in old site



Existing emergency hospital in new site

I-1 PANGASINAN PROVINCIAL HOSPITAL

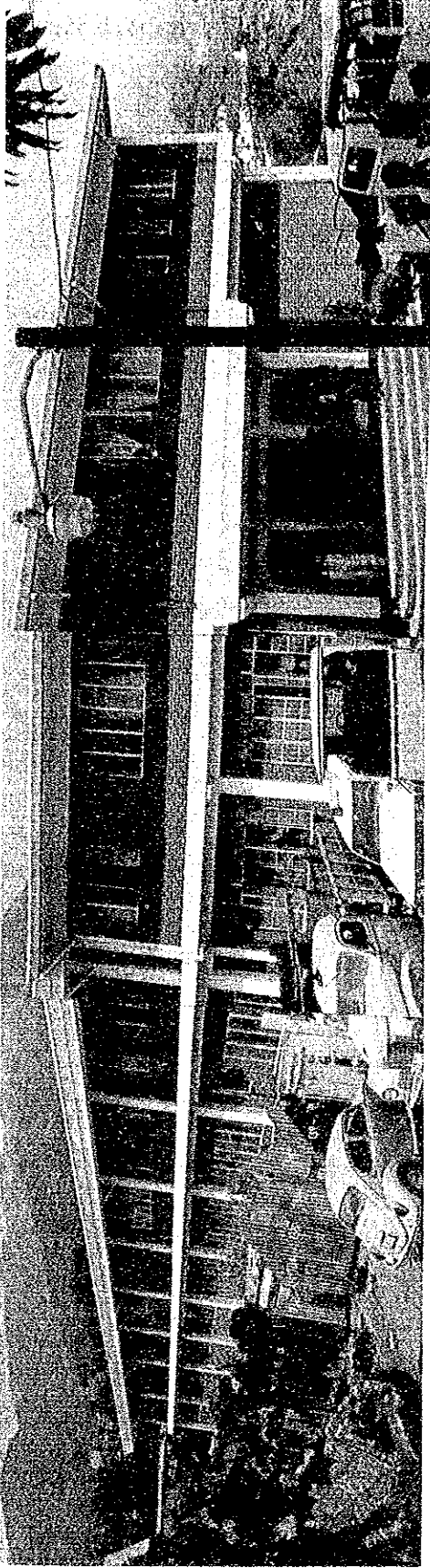
(I - 2) BONTOC PROVINCIAL HOSPITAL

ボントック市の北部に位置する BONTOC PROVINCIAL 病院は、山裾の一段小高い台地にある、東側は民家が街の東側を流れる川(CHICO RIVER) に向って続き、西側は険しい山が敷地までせまっている。北側は耕地、南は山裾に沿って民家が続く東向きの敷地である。敷地の形状は不整形な方形で、その中程を巾員 12 m の進入路が南北に通り、既存施設はひな段形に整地された山側にある。この進入路と西側の敷地境界までの高低差は約 10 m もあり、奥行 60 ~ 70 m に比べ大きな勾配である。

既存建物は中央診療、病棟、看護婦宿舎、医師住宅、食堂、厨房、工作売店等含め 9 棟である。1906 年に建設されたレンガ造の建物が一番古く、1972 年に外来の診療棟が新築され、更に診療部門を拡大するため、現在鉄筋コンクリート造、2 階建の建物を増築中で、間もなく完成する予定である。

主な建物の配置は、敷地の北側に前から中央診療棟、その裏に平屋のレンガ造、1 段上って一番古いと思われる 2 階建レンガ造の病棟があり、北の奥にレンガ造平屋の栄養失調児病棟がある。病棟の左側に平屋レンガ造の厨房、食堂棟、敷地西側に木造 2 階建の看護婦宿舎と医師の宿舎がある。敷地の中を貫通するように巾 2 m の排水路が設けられ、雨時の裏山の排水に役立っている。

この病院の建物施設上の問題点は、レンガ造、木造の建物の老朽化が進み、使用の限界に来ている点である。



Newly constructed and partly renovated main building



View to hospital site with nurse dormitory

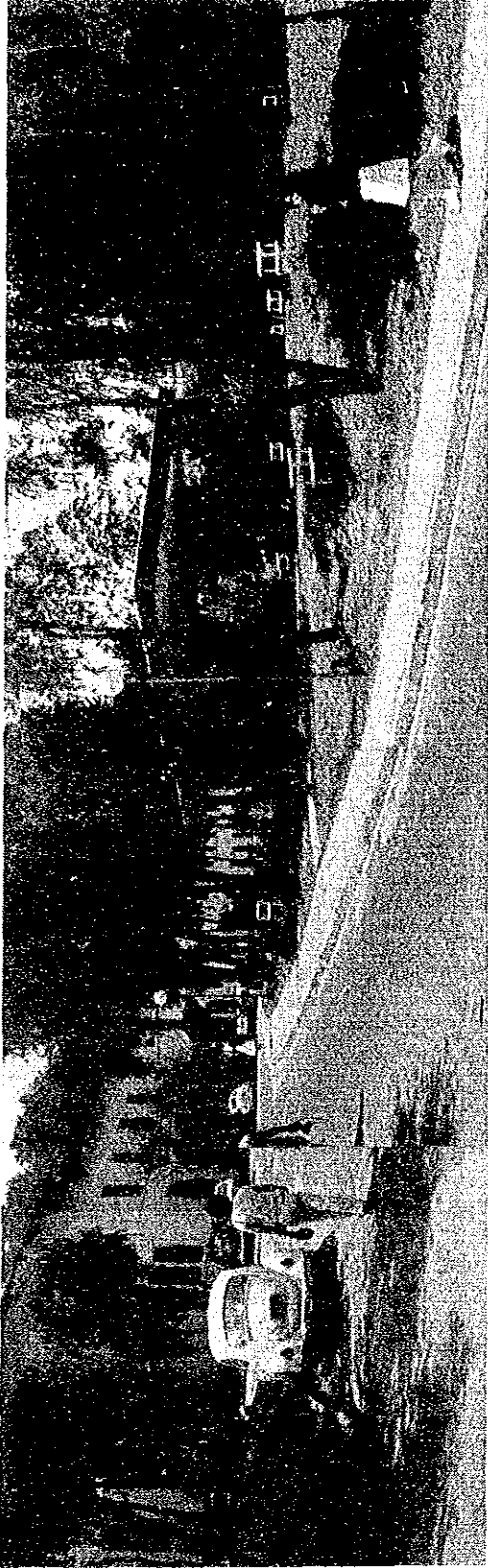
I-2 BONTOC PROVINCIAL HOSPITAL

(I - 3) BAGUIO GH & MEDICAL CENTER

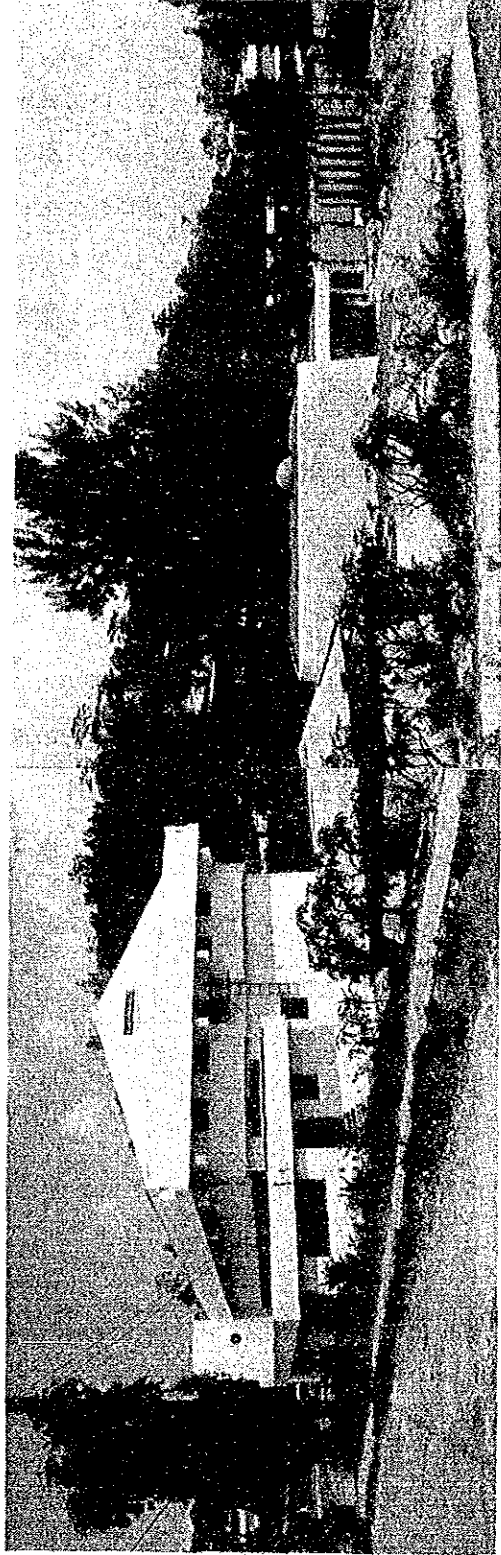
前面の庭園の左右対にある築山には、多種類の針葉樹が植えられ南国の庭園とは趣を異にするが、手入れの行届いた1haはある庭園を通し、裏山の松林から浮び上るように強い日射に照し出される白い建物は、病院のイメージではない。

庭園を取巻く車路を上ると、車路に沿って白亜の本館が約100mに渡り延びている。この本館は1946年アメリカの援助で建設されたもので、コンクリート造2階建のシンメトリーの形をした建物で、外来診療、歯科、ガンセンターを除き、診療、病床、管理事務等の全てを備えている。平面プランは中廊下式であるが、高い天井が通風効果を上げている。本館の裏は、壁面のようにそそり立つ松林がせまり、増築用スペースを確保できないほどである。本館の左側に外来、歯科、家族計画用の棟があり、道路を隔て事務棟、ガンセンター、看護学校の建物がある。既に完成している事務棟の裏に、コバルト部門を完成しただけで、工事ストップしているガンセンター棟がある。ガンセンター棟は地下1階(半地下階)地上2階の鉄筋コンクリート造であるが、現在1階部分の柱のコンクリート打が終った所で工事が中止され、それ以後の工事を今回のプロジェクトで検討するよう要望があった。

尚、本館の増築用地として前庭が考えられるが、本館とのレベル差が約4.6m程ある。



Frontgarden and main building



Cancer Center at the right hand and pediatric clinic at the left hand

I-3 BAGUIO GENERAL HOSPITAL & MEDICAL CENTER

(I - 4) BENGUET PROVINCIAL HOSPITAL

バギオ市から北へ国道(11号線)を車で30分程行くと平坦な盆地に出る。左のマーケットの大きな集落を、右の高校、単科大学の校舎を過ぎると、黄色い2階建、コンクリートの新しい建物が目に入る。この建物はラ・トリニダード市役所(LA TRINIDAD MUNICIPALITY)である。その隣りに、赤い寄棟屋根の建物があり、更に30 m程離れ住宅風の赤い屋根の建物がみえる。寄棟屋根の奥に2階建の比較的新しい建物がある。渡り廊下の屋根越しにみる妻面の壁のBENGUET PROVINCIAL HOSPITALの文字がないと病院とは思えない程の規模である。赤い寄棟屋根の建物は診療棟で一部病床と食堂、厨房を含み、住宅風の建物は事務棟、奥の2階建の建物は病棟である。診療棟と事務棟は木造の高床式の建物で既に30年を経てもかなり老朽化している。診療棟は、玄関、家族計画部分を最近増改築し手入した。奥の病棟は鉄筋コンクリート造で、完成後2年経ただけで新築同様である。床面積は520 m²程で、全て病室である。この病棟と診療棟の間に現在、鉄筋コンクリート造平屋の小児科病棟を工事中で、既に壁のコンクリートブロック積工事が進んでいた。

敷地は、国道に接し、短辺140 m、長辺200~270 mの東西に長い長方形に近い形状をしている。その面積は3.2 ha、平坦であるが、前庭と建物の周囲が盛土整地されているだけで、裏の増築予定地には現在トマト等の野菜を栽培している。畑地と整地レベルまでは約1 mあり造成には多量の土量が必要になる。



View to hospital site
(At the left hand communicable disease ward)



Pediatric ward now
under construction



Open corridor and
office building at the back

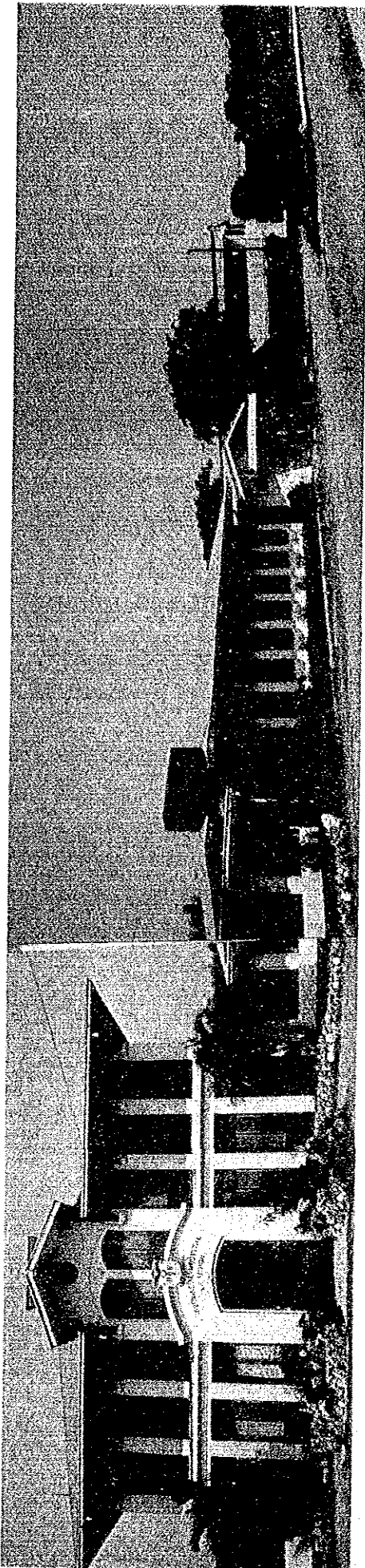
I-4 BENGUET PROVINCIAL HOSPITAL

(I - 5) LA UNION PROVINCIAL HOSPITAL

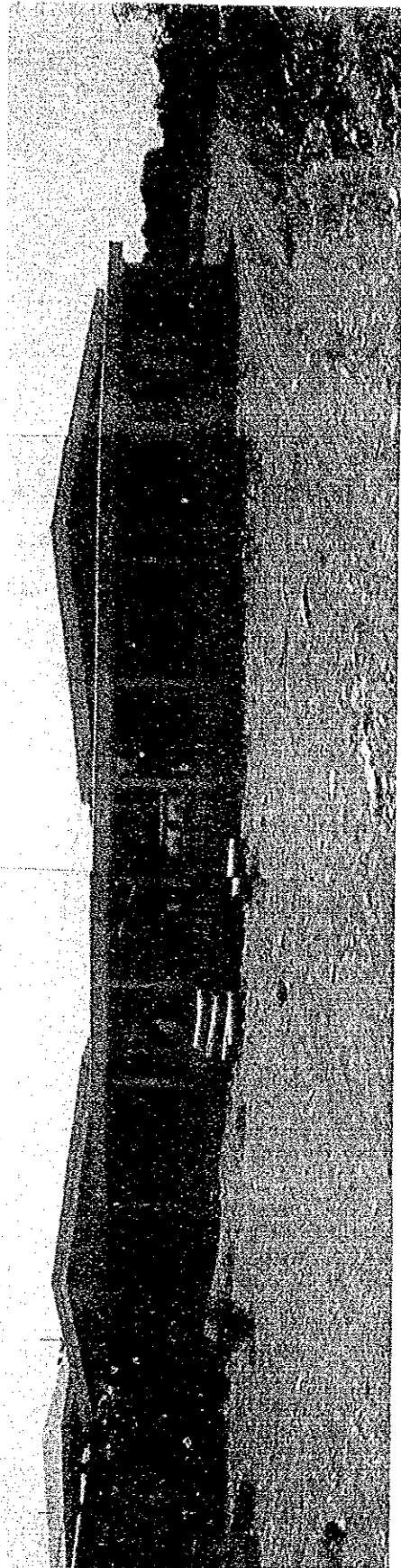
赤、黄、ピンクの原色に近い南国特有の花々の咲き競り庭園の奥に、ダグバン市 PANGASINAN PROVINCIAL 病院と寸分違わない外観の建物がある。これが LA UNION PROVINCIAL 病院の本館である。この建物は 1953 年建設され、コンクリート造 2 階建の部分を中心に左右シンメトリー平屋の建物が延びている。本館の中は中央診療、内科病床、有料病床と事務室からなり、この裏に小児科病棟、外科病棟、厨房棟、内科病棟が左から本館に平行に並んでいる。厨房棟を除き他の 3 棟は 1974 年から 1978 年にかけて建設されたもので鉄筋コンクリート造、平屋である。

敷地北側（本館の右側）は本館と構内道路を隔て看護婦宿舎、男子独身寮、車庫等が奥に向って並んでいる。一方南側も構内道路を隔て看護婦、助産婦のトレーニングセンターがある。

病院は市の中心街から 2.5 Km 離れた国道（3 号線）沿いにある。敷地は約 4.7 ha、平坦な地形であるが、増築部分は未整地のため、約 1 m 位の盛土造成をする必要がある。



Main building (right wing and central part)



Wards at the back side